

## ***Oxford Reading Tree*** Level 6 Stories

- ① In the Garden 「お庭で」
- ② Kipper and the Giant 「キッパーと巨人」
- ③ The Outing 「遠足」
- ④ Land of the Dinosaurs 「恐竜の国」
- ⑤ Robin Hood 「ロビン・フッド」
- ⑥ The Treasure Chest 「宝箱」

## In the Garden 「お庭で」

- PG 1: Kipper went into Chip's room and picked up the magic key.  
The key began to glow.  
"Oh help!" said Kipper.  
キッパーはチップの部屋に行き、マジックキーを手に取りました。  
鍵が光り始めました。  
「助けて！」とキッパーが言いました。
- PG 2: Kipper ran outside and looked for Biff and Chip.  
"Help!" he called. "The key is glowing."  
キッパーは外に飛び出して、ビフとチップを捜しました。  
「助けて！」とキッパーは叫びました。「鍵が光ってるんだ」
- PG 3: Biff and Chip were playing with Wilf and Wilma.  
They were playing in the sandpit.  
"Look at the magic key," called Kipper.  
ビフとチップはウィルフとウィルマと遊んでいました。  
みんなは砂場で遊んでいました。  
「マジックキーを見て」とキッパーが言いました。
- PG 4: Biff was cross with Kipper.  
"Come on everyone," she yelled. "Run inside. Get to the magic house."  
ビフはキッパーにむっとしました。  
「さあ、みんな」ビフは大きな声で言いました。  
「早く家に入って。魔法の家に行くのよ」
- PG 5: It was too late. The magic began to work.  
The children got smaller and smaller.  
もう手遅れでした。魔法が働き始めたのです。  
子どもたちはどんどん小さくなりました。
- PG 6: The children were in the grass and everything looked big.  
The grass was like a jungle.  
"What big flowers!" said Kipper.  
子どもたちは草の中にいました。何もかもが大きく見えました。  
草はジャングルのようなでした。  
「なんて大きな花なんだ！」とキッパーが言いました。

- PG 7: Chip saw a bumble-bee. He didn't like it and he didn't like the jungle.  
"Let's get out of here," he called.  
チップはマルハナバチを目にしました。チップはハチが嫌だったしジャングルも嫌でした。「ここから出ようよ」とチップは叫びました。
- PG 8: The children came out of the jungle. They came to a mountain.  
"What a big mountain!" said Wilf.  
子どもたちはジャングルから抜け出しました。そして山までやって来ました。  
「なんて大きな山なんだ！」とウィルフが言いました。
- PG 9: Chip began to climb. He wanted to get to the top.  
"Come on," he said. "Let's climb up."  
チップは登り始めました。頂上まで行きたかったのです。  
「さあ」チップが言いました。「登ろうよ」
- PG 10: The children got to the top. Kipper was hot.  
"I don't like climbing mountains," he said.  
子どもたちは頂上に着きました。キッパーは熱くなりました。  
「僕、山登りなんか嫌いだ」キッパーが言いました。
- PG 11: The children looked at the sand. "It looks like a desert," said Biff.  
"Let's go down."  
"Oh no!" said Kipper.  
子どもたちは砂場を眺めました。「砂漠みたいね」とビフが言いました。  
「降りてみましょうよ」  
「えー！」とキッパーが言いました。
- PG 12: "Look at the toy car," said Wilma.  
"Let's get inside and ride down. We can ride down to the desert."  
「見て、おもちゃの車よ」とウィルマが言いました。  
「乗って車で降りましょうよ。砂漠まで降りて行けるわ」
- PG 13: Whoosh! The car took them down the mountain.  
"This is fun," said Wilma.  
シャー！車で山を下りました。  
「おもしろ〜い」とウィルマが言いました。
- PG 14: The car stopped in the sand. The children climbed out.  
"Oh no!" said Wilf. "Look at that big cat."  
車は砂にはまって止まりました。子どもたちは這い出てきました。  
「大変だ！」とウィルフが言いました。「あの大きな猫を見て」

- PG 15: The children climbed inside a bottle. Kipper was frightened.  
"I don't like this," he said.  
子どもたちはビンの中にもぐり込みました。キッパーは怖くなりました。  
「僕、こんなの嫌だ」とキッパーが言いました。
- PG 16: The cat looked inside the bottle. It pushed it with its paw.  
"Go away, cat," shouted Kipper.  
"Shoo!" everyone yelled.  
猫はビンの中を覗きました。そしてビンを前足で押してきました。  
「猫め、あっち行け」とキッパーが叫びました。  
「しっ、しっ！」とみんなが大声をあげました。
- PG 17: Floppy chased the cat away. The children climbed out of the bottle.  
"Good old Floppy!" said Biff.  
フロッピーが猫を追い払ってくれました。子どもたちはビンから這い出てきました。  
「よくやったわ、フロッピー！」ビフが言いました。
- PG 18: They walked over the desert. Everyone felt hot.  
Everyone felt very hot.  
"I want a drink," said Kipper.  
子どもたちは砂漠の上を歩きました。みんな熱くなりました。  
とても熱くなりました。  
「何か飲みたいな」キッパーが言いました。
- PG 19: "Look!" said Wilf. "Giant strawberries!"  
The children ran to eat them.  
"I love strawberries," said Chip.  
"So do I," said Wilf.  
「見て！」ウィルフが言いました。「おばけみたいに大きなイチゴ！」  
子どもたちはイチゴを食べようとかけ寄りました。  
「イチゴだーいすき」とチップが言いました。  
「ぼくもだよ」ウィルフが言いました。
- PG 20: The children ate the strawberries. They pulled off big lumps.  
Kipper licked his lips.  
"I like this adventure now," he said.  
子どもたちはイチゴを食べました。みんな大きなかたまりをもぎ取りました。  
キッパーは唇をなめました。  
「ぼくこの冒険が気に入ったよ」キッパーが言いました。

- PG 21: It began to rain.  
“What big drops!” said Wilma.  
“I feel sick now,” said Kipper.  
“So do I,” said Chip.  
雨が降り出しました。  
「なんて大きなしずくなの！」とウィルマが言いました。  
「ぼく、気持ち悪くなっちゃったよ」キッパーが言いました。  
「ぼくもだ」とチップが言いました。
- PG 22: The children ran to a giant flowerpot.  
They hid under it. The key began to glow.  
子どもたちは大きな植木鉢まで走りました。  
そしてその下に身を隠しました。鍵が光り始めました。
- PG 23: The magic was over.  
“I can’t see,” said Chip. He had the flowerpot on his head.  
“I like the hat,” said Wilma.  
魔法は終わりました。  
「何も見えないよ」とチップが言いました。  
チップは植木鉢をかぶっていたのです。  
「すてきな帽子だわ」とウィルマが言いました。
- PG 24: Dad looked at his strawberries.  
“I don’t know,” he said. “There must be giant slugs round here.”  
パパがイチゴを見えています。  
「どうしたことだろう」とパパが言いました。  
「この辺に大きなナメクジがいるに違いない」

## Kipper and the Giant 「キッパーと巨人」

- PG 1: Kipper was watching television. He was watching a programme called "The angry giant". He liked the programme.  
キッパーはテレビを見ていました。「怒りん坊の巨人」という番組でした。キッパーはその番組が気に入りました。
- PG 2: The angry giant lived in a castle near a village. Nobody in the village liked the giant. He was always cross.  
その怒りん坊の巨人は村の近くの城に住んでいました。村にその巨人が好きだという者は一人もいませんでした。巨人はいつも怒ってばかりいたからです。
- PG 3: When the giant was cross he stamped his feet and the houses shook. "Oh no!" everyone said. "He's cross again. He's always cross."  
巨人は怒ると足を踏みならしたので、家々がゆれました。「まいったなあ！」みんなが言いました。「また巨人が怒ってる。あいつはいつだって怒ってばかりなんだから」
- PG 4: Kipper went to find Chip but he was out. He picked up the magic key and it began to glow. "Ooh!" said Kipper.  
キッパーはチップを捜しに行きましたが、チップは出かけていました。キッパーがマジックキーを手にとると、鍵が光りだしました。「うわあ！」キッパーが言いました。
- PG 5: He ran to get Biff but she was out with Chip. The magic began to work. It took Kipper inside the magic house.  
キッパーは急いでビフを探しに行きましたが、ビフはチップと一緒に出かけていました。魔法の力が働き始めました。キッパーは魔法の家の中へ連れて行かれました。
- PG 6: The magic took Kipper to the gate of the giant's castle. Kipper was frightened.  
魔法の力で、キッパーは巨人の城の門のところまでやってきました。キッパーは怖くなりました。
- PG 7: He saw a signpost. It pointed to the village.

He didn't want to meet the giant, so he went to the village.  
キッパーは道しるべを目にしました。それは、村への道を指していました。  
巨人に会うのはいやだったので、キッパーは村へと向かいました。

- PG 8: Kipper came to the village but it was tiny. Kipper was a giant.  
"Oh no!" said Kipper.  
キッパーは村に着きました。けれど村は小さなものでした。キッパーは巨人になっていました。  
「なんてこった！」キッパーは言いました。
- PG 9: "Go away," yelled the people. "We don't want you. We've got one giant. We don't want another one."  
「出て行け！」人々は叫びました。「お前なんかいらぬ。ここにはもう巨人が一人いるんだから。また巨人が増えるなんてごめんだね」
- PG 10: The people threw things at Kipper.  
"Go away," they yelled. "We don't want another giant. We don't want you."  
人々はキッパーに物を投げつけました。  
「出て行け」人々は叫びました。「もう巨人はたくさんだ。お前なんかいらぬ」
- PG 11: "Stop it," shouted Kipper. "I'm not a giant. I'm a boy."  
The people said, "Well, you look like a giant."  
「やめてよ」キッパーが叫びました。「ぼくは巨人じゃない。男の子だよ」  
人々は「うーん、でも巨人のように見えるからなあ」と言いました。
- PG 12: Kipper began to cry.  
"I'm not a giant," he said. "I'm a little boy and I don't like this adventure"  
キッパーは泣き始めました。  
「ぼく、巨人じゃないのに」キッパーは言いました。「ぼくは小さな男の子なんだ。こんな冒険もういやだ」
- PG 13: "Giants don't cry," said the people. "Perhaps he is a little boy but he looks like a giant to us. Perhaps he can help us."  
「巨人は泣いたりしないぞ」と人々は言いました。「もしかしたらこいつは小さな男の子なのかもしれない。我々には巨人のように見えるけれど、ひょっとしたら我々の役に立ってくれるかもしれないぞ」
- PG 14: Kipper helped the villagers to mend their houses.  
He put back the broken roofs.  
"Good old Kipper," everyone said.

キッパーは村人が家を直すのを手伝いました。壊れた屋根を元に戻しました。

「たいしたもんだ、キッパー」みんなが言いました。

- PG 15: “The giant threw this big stone at us,” said the people.  
“We don’t want it here. Can you put it outside the village?”  
「巨人がこの大きな石を投げてきたんだ」人々が言いました。  
「こんなものがここにあると邪魔なんだ。村の外に持って行ってくれるかい？」
- PG 16: “Yes,” said Kipper, “I’ll try.”  
He picked up the stone and took it outside the village.  
“Good old Kipper!” everyone called.  
「うん」キッパーが言いました。「やってみるよ」  
キッパーは石を持ち上げて、それを村の外へ持って行きました。  
「たいしたもんだ、キッパー！」みんなが言いました。
- PG 17: All the people liked Kipper.  
“Thank you,” they said. “You have helped us a lot.”  
The village band played for him.  
みんなキッパーのことが好きになりました。  
「ありがとう」みんなが言いました。「本当に助かったよ」  
村の楽団がキッパーのために演奏しました。
- PG 18: The giant came back. He was very angry when he saw Kipper in the village.  
巨人が戻って来ました。キッパーが村にいることに気づくと、巨人はとても怒りました。
- PG 19: “I’m the giant here,” he shouted. He ran towards the village.  
Crash! He fell over the stone.  
“Ouch!” he yelled.  
「俺がこの村の巨人だぞ」巨人は叫びました。そして村に向かって走りま  
した。  
ドシン！ 巨人は石につまずき転びました。  
「いて！」巨人は叫びました。
- PG 20: The people were frightened but Kipper went to help the giant. He picked  
up the giant’s things and put a bandage round his head.  
人々はおびえていました。でもキッパーは巨人を助けに行きました。  
キッパーは巨人の荷物を拾い、頭に包帯を巻いてあげました。
- PG 21: Kipper was bigger than the giant.



“Be a good giant,” said Kipper. “Stop being angry and the people will like you.”

キッパーは巨人よりも大きかったのです。

「優しい巨人になるんだ」キッパーは言いました。

「怒るのをやめれば、みんな君のことを好きになってくれるよ」

PG 22: So the giant stopped being angry.

“I’ll try to be good,” he said.

“Hooray!” shouted the people. “Let’s have a party!”

そこで、巨人は怒るのをやめました。

「みんなに優しくするようにするよ」と巨人は言いました。

「ばんざい！」人々は声をあげました。「パーティーを開こう！」

PG 23: The key began to glow.

“It’s time for me to go now,” said Kipper. “Good bye. Thank you for the party.”

鍵が光り始めました。

「もう行かなくちゃ」キッパーが言いました。

「さようなら。パーティーをありがとう」

PG 24: The magic took Kipper home.

“Nobody likes an angry giant,” said Kipper. “What an adventure!”

魔法の力でキッパーは家に戻りました。

「怒りん坊の巨人なんて、誰も好きにならないよ」キッパーが言いました。

「何て冒険だ！」

## The Outing 「遠足」

- PG 1: A bus came to the school. The children climbed in.  
"I like going out," said Wilf.  
"Don't push," said Mrs May.  
バスが学校にやって来ました。子どもたちが乗り込みました。  
「ぼく、出かけるの好き」ウィルフが言いました。  
「押してはいけませんよ」メイ先生が言いました。
- PG 2: The bus set off.  
"Hooray!" shouted the children. "We're going to the zoo."  
"Don't shout, children," said Mrs May.  
バスが出発しました。  
「やった！」子どもたちが歓声をあげました。「動物園に行くんだ」  
「あなたたち、大声を出さないで」メイ先生が言いました。
- PG 3: Biff sat with Chip. Wilf sat with Nadim.  
"This is fun," shouted Nadim.  
"It is if you don't shout," said Mrs May.  
ビフはチップと一緒に座りました。ウィルフはナディムと座りました。  
「楽しいな」ナディムが叫びました。  
「あなたが大声を出さなければね」メイ先生が言いました。
- PG 4: The bus stopped on the way. The children climbed out. Some children looked at the water. Some children went to the toilet.  
バスは途中で止まりました。子どもたちは降りました。  
川を眺める子もいれば、トイレに行く子もいました。
- PG 5: "Don't run away," said Mrs May, "and don't go too near the water."  
「遠くへ行ってはいけませんよ」とメイ先生が言いました。  
「それと、水辺に近寄りすぎないこと」
- PG 6: Wilf kicked a stone and his shoe came off.  
The shoe landed in the water with a splash.  
"Oh Wilf!" said Biff.  
ウィルフは石を蹴りました。すると靴がぬげてしまいました。  
靴は水の中にバンシャンと落ちました。  
「もう、ウィルフったら！」とビフが言いました。

- PG 7: Wilf couldn't get his shoe. He told Mrs May about it.  
"What a silly thing to do!" she said. "I don't know what we can do."  
ウィルフは靴を取り戻せませんでした。  
ウィルフはメイ先生にそのことを話しました。  
「なんてばかな事をしたんですか！」先生が言いました。  
「もうどうしようもないわ」
- PG 8: When they got to the zoo it began to rain.  
The children climbed out of the bus and Mrs May went to get the tickets.  
一行が動物園に着く頃には、雨が降り始めました。  
子どもたちはバスを降り、メイ先生は入場券を買いに行きました。
- PG 9: Nadim wanted to see the elephants.  
Wilf wanted to see the lions and Biff wanted to see the crocodiles.  
"I hope the rain stops," said Mrs May.  
ナディムはゾウが見たいと思いました。  
ウィルフはライオンが見たくて、ビフはワニが見たいと思いました。  
「雨が止むといいのだけど」メイ先生が言いました。
- PG 10: It rained and rained. The children were fed up. The animals were fed up too.  
"Don't get wet," said Mrs May.  
雨は降り続けました。子どもたちはうんざりしていました。動物たちもうんざりしていました。  
「濡れないようにするんですよ」メイ先生が言いました。
- PG 11: The rain didn't stop so the children climbed back on the bus.  
"Can we go to the museum?" asked Nadim.  
"What a good idea!" said Mrs May.  
雨が止まなかったので、子どもたちはバスに戻りました。  
「博物館に行つてはどうですか？」ナディムが言いました。  
「まあ！それはいいわね！」メイ先生が言いました。
- PG 12: They went to a museum. "This is good," said Wilf. "We can see dinosaurs here."  
"I like dinosaurs," said Nadim.  
みんなは博物館に行きました。「おもしろそう」ウィルフが言いました。  
「ここで恐竜が見られるぞ」  
「僕、恐竜が好きなんだ」ナディムが言いました。
- PG 13: They began to run towards the dinosaurs.  
"Don't run," called Mrs May. "The dinosaurs won't go away."

子どもたちは恐竜に向かって走り出しました。  
「走ってはいけません」メイ先生が言いました。「恐竜はどこにも行きませ  
んよ」

- PG 14: They looked at a big dinosaur.  
“What is this one called?” asked Wilf.  
“I don’t know yet,” said Nadim. “Let’s go and see.”  
みんなは大きな恐竜を見ました。  
「これはなんて恐竜！」ウィルフがたずねました。  
「わからないよ」ナディムが言いました。「行って見てみよう」
- PG 15: Biff had her camera. She took a photograph of the dinosaur.  
“What is it called?” she asked.  
“It’s an apatosaurus,” said Nadim.  
ビフはカメラを持っていました。ビフは恐竜の写真を撮りました。  
「これはなんて恐竜！」ビフがたずねました。  
「アパトサウルス(ブrontサウルス)だよ」ナディムが言いました。
- PG 16: The children went into a room.  
A lady told them about dinosaurs and showed them some pictures.  
子どもたちはある部屋に入りました。  
女の人が恐竜の話をして、何枚か絵も見せてくれました。
- PG 17: “I know what that one is called,” said Nadim. “It’s called an apatosaurus.”  
“Good, Nadim,” said Mrs May.  
「ぼく、あれ何ていうか知ってるよ」ナディムが言いました。  
「アパトサウルスっていうんだ」  
「よくわかったわね、ナディム」メイ先生が言いました。
- PG 18: The children went to the shop. Wilf got a book about dinosaurs.  
Nadim got a model to make. It was a model of an apatosaurus.  
子どもたちは売店に行きました。ウィルフは恐竜に関する本を買いま  
した。  
ナディムは工作模型を買いました。アパトサウルスの模型でした。
- PG 19: “I can make it at home,” he said.  
Chip said, “Come to our house. We can help you.”  
「これ、家で作るんだ」とナディムが言いました。  
「うちにおいでよ。手伝ってあげる」とチップが言いました。
- PG 20: The bus got back to school. It was time to go home.  
“Thank you,” said the children. “Thank you for a lovely day.”

バスが学校に戻りました。もう家に帰る時間です。  
「ありがとう」子どもたちが言いました。  
「楽しい一日をありがとう」

- PG 21: “Goodbye, Mrs May,” said Nadim. “Can we draw dinosaurs tomorrow?”  
“What a good idea!” said Mrs May.  
「メイ先生、さようなら」ナディムが言いました。  
「明日、恐竜の絵を書いてもいいですか？」  
「まあ、それはいい考えね！」メイ先生が言いました。
- PG 22: Nadim and Wilf went home with Biff and Chip.  
They went to Chip’s room and began to make the model.  
ナディムとウィルフはビフとチップと一緒に家に行きました。  
みんなはチップの部屋に行って、模型を作り始めました。
- PG 23: The magic key began to glow. Biff ran to the box and picked it up.  
“Come on,” she called. “It’s time for a magic adventure.”  
マジックキーが光り始めました。ビフは箱にかけよって、鍵を取り上げました。  
「さあ」ビフは大きな声で言いました。「冒険の時間よ」
- PG 24: “Come on Nadim,” called Chip.  
“We’re going on a magic adventure. We’re going to the land of the dinosaurs.”  
「行こう、ナディム」チップが言いました。  
「ぼくたち、魔法の冒険に行くんだよ。恐竜の国へ行くんだ。」

## Land of the Dinosaurs 「恐竜の国」

- PG 1: “We are going on a magic adventure” said Chip.  
The children went through the door of the magic house.  
“Oh help!” said Nadim.  
「ぼくたち、魔法の冒険に行くんだよ」とチップが言いました。  
子どもたちは魔法の家のドアをくぐりました。  
「うわあ、助けて！」ナディムが言いました。
- PG 2: The magic took the children to the land of the dinosaurs.  
“I don’t want this adventure,” said Nadim.  
“I don’t want to meet a dinosaur.”  
魔法の力で、子どもたちは恐竜の国へとやってきました。  
「ぼく、こんな冒険したくないよ」ナディムが言いました。  
「恐竜になんか会いたくない」
- PG 3: A dragon-fly flew by.  
“Look at this,” said Chip. “It’s a giant dragon-fly. What a big one!”  
トンボがすぐそばを飛んでいました。  
「見て」チップが言いました。「巨大トンボだ。なんて大きいんだろう！」
- PG 4: Chip found a footprint. It was a giant footprint.  
“Come and look,” said Chip. “It must be a dinosaur’s footprint.”  
チップは足跡を見つけました。それは巨大な足跡でした。  
「ちょっとこれを見て」チップが言いました。「きっと恐竜の足跡だよ」
- PG 5: Biff took a photograph of the giant footprint.  
“I can take this photograph to school,” she said.  
ビフは巨大な足跡の写真を撮りました。  
「この写真、学校に持って行けるわ」ビフは言いました。
- PG 6: Nadim found some eggs. They were big eggs.  
“They must be a dinosaur’s eggs,” he said.  
ナディムは卵をいくつかを見つけました。  
それは大きな卵でした。「きっと恐竜の卵だよ」とナディムは言いました。
- PG 7: One of the eggs began to crack.  
“It’s going to hatch out,” said Biff. Something came out of the egg.  
“It’s a little dinosaur,” said Nadim.

卵が一つ、割れ始めました。  
「ひながかえるんだわ」ビフが言いました。何かが卵から出て来ました。  
「小さな恐竜だ」ナディムが言いました。

PG 8: Something flew by. The children were frightened.

“What is it?” asked Chip.

“I don’t know,” said Biff.

何かが飛んできました。子どもたちはぎょっとしました。

「何、あれ？」チップが聞きました。

「わかんない」ビフが言いました。

PG 9: The children ran.

“It’s a flying dinosaur,” said Nadim, “ and it’s a big one. Come on, let’s hide.”

子どもたちは走りました。

「空飛ぶ恐竜だ」ナディムが言いました。「大きいぞ。早く、隠れよう」

PG 10: The flying dinosaur flew down to the eggs.

It picked up the little dinosaur in its teeth.

その空飛ぶ恐竜は卵の上に舞い降りました。

小さな恐竜をくわえたのです。

PG 11: “Oh no!” said Biff. “It’s going to eat it.” She picked up a stick and ran out.

“Go away!” she yelled.

「大変だわ！」ビフが言いました。「食べる気よ」ビフは棒を拾って、走り出しました。

「あっちへ行行って！」ビフは叫びました。

PG 12: The dinosaur flew away but Chip was cross with Biff.

“You were silly,” he said. “It could have got you.”

恐竜は飛んで行きましたが、チップはビフに腹を立てました。

「バカなことして」チップは言いました。

「捕まったかもしれないじゃないか」

PG 13: Wilf ran on and climbed a hill. He wanted to look for an apatosaurus.

“Come up here Biff,” he called. “You can take a photograph.”

ウィルフが駆け出して丘に登りました。アパトサウルスを探したかったのです。

「ビフ、ここまで上がっておいでよ」ウィルフはビフを呼びました。

「写真を撮れるよ」

PG 14: Wilf had not climbed on a hill.

He had climbed on a dinosaur and it was enormous.

It looked round at Wilf.

ウィルフが登ったのは丘ではありませんでした。

登っていたのは恐竜、それも特大の恐竜でした。

恐竜は振返ってウィルフの方を見ました。

PG 15: Wilf was frightened.

“Oh help!” he said.

He jumped down and ran. “Let’s get out of here,” he called.

ウィルフはぎょっとしました。

そして、「うわあ、助けて！」と言いました。

ウィルフは飛び降りて走りました。そして、「ここから逃げよう」と叫びました。

PG 16: “Don’t be frightened,” said Chip. “It’s an apatosaurus. It’s like the one in the museum. It won’t hurt us.”

「怖がらないで」チップが言いました。「アパトサウルスだよ。博物館で見たのと同じだ。人を襲ったりしないよ」

PG 17: Biff took a photograph of it.

“What a long neck it’s got and what a long tail!” she said.

“I need a bigger camera.”

ビフは写真を撮りました。

「なんて長い首をしてるのかしら。それにしっぽもずいぶん長いわね！」とビフは言いました。

「もっと大きなカメラが必要だわ」

PG 18: The apatosaurus ran into the water.

“What an enormous splash!” said Wilf.

Nadim looked frightened. “Oh help!” he called.

アパトサウルスは走りだし水に飛び込みました。

「なんて大きな水しぶき！」ウィルフが言いました。

ナディムがおびえた顔をしていました。「た、助けて！」ナディムが叫びました。

PG 19: Another dinosaur was coming and it looked very fierce.

“Let’s get out of here,” yelled Chip.

別の恐竜が近づいてきていました。その恐竜はとても凶暴そうでした。

「ここから逃げよう」チップが大声で言いました。

PG 20: Biff took a photograph.

“Come on,” yelled Chip, “don’t stop for that. This one could eat us!”



ビフは写真を撮りました。

「早く」チップが叫びました。「立ち止まって写真なんか取ってないで。この恐竜はぼくたちを食べるかもしれないよ！」

PG 21: They began to run away. Wilf's other shoe came off in the mud.  
Suddenly, the magic key began to glow.

“Just in time!” said Chip.

こどもたちは逃げ出しました。

ウィルフの残っていた方の靴が泥にはまってぬげてしまいました。

突然、マジックキーが光り始めました。

「ぎりぎりセーフだ！」チップが言いました。

PG 22: The magic took the children to Biff's bedroom.

“What an adventure!” said Biff. “I've got some good photographs.”

魔法の力で子どもたちはビフの部屋へ戻りました。

「なんて冒険！」ビフが言いました。「私、いい写真を撮ったわ」

PG 23: “This is the fierce dinosaur,” said Chip.

“Did you take its photograph?”

“Yes,” said Biff. “Let's tell Mum and Dad.”

「あの凶暴な恐竜はこれだね」とチップが言いました。

「その写真は撮ったの？」

「うん」とビフが言いました。「ママとパパに報告しましょう」

PG 24: “I took photographs of dinosaurs,” said Biff.

“Oh yes,” said Dad.

“Well, I'm sorry, I didn't put a film in the camera.”

「私、恐竜の写真を撮ったのよ」ビフが言いました。

「あ、そうそう」パパが言いました。

「悪かったね。そのカメラにはフィルムを入れてなかったんだ」

## Robin Hood 「ロビン・フッド」

- PG 1: Biff and Wilma went to the pantomime\*. They went with Wilma's mum. They had a friend called Anneena. Anneena went to the pantomime with them.  
ビフとウィルマはおとぎ芝居に出かけました。ウィルマのママと一緒にしました。  
二人にはアニーナという友だちがいました。アニーナも一緒におとぎ芝居に行きました。  
(\*編集部注:「パントマイム」は日本では、台詞のない、身体表現による無言劇を差す場合が多いが、ここでは昔話などを題材にしたおとぎ芝居の意)
- PG 2: The pantomime was about Robin Hood. Robin Hood was a good man. He lived in a wood with his men. Everyone liked Robin Hood and they gave a cheer every time he came in.  
そのおとぎ芝居はロビン・フッドのお話でした。ロビン・フッドは善良な人でした。仲間たちと森の中に住んでいました。ロビン・フッドは人気者で、ロビンがやって来るといつでも人々は歓声をあげました。
- PG 3: There was a bad man called the Sheriff\*. Nobody liked the Sheriff. He wanted to catch Robin Hood and lock him up.  
“Look out, Robin!” shouted the children.  
シェリフという悪人がいました。シェリフはみんなの嫌われ者でした。シェリフはロビン・フッドを捕まえ、閉じ込めてしまいたいと思っていました。「危ない、ロビン！」子どもたちが叫びました。  
(\*編集部注:sheriff は本来、州の行政官、執政長官の意味だが、ここでは“the Sheriff”で、ロビンフッドの敵として登場する特定の人物を差す。“the Sheriff of Nottingham”、「ノッティンガムの長官」として有名)
- PG 4: The next day, Wilma and Anneena went to play with Biff. They sang a song about Robin Hood. Wilma played her guitar and Anneena played her recorder.  
次の日、ウィルマとアニーナはビフのところへ遊びに来ました。子どもたちはロビン・フッドの歌を歌いました。ウィルマがギターを弾き、アニーナが縦笛を吹きました。
- PG 5: Kipper didn't like the song. He put his hands over his ears and made a face. “Woooooooh,” said Kipper.

キッパーはその歌が嫌いでした。両手で耳をおおい、顔をしかめました。  
「うううう」キッパーが言いました。

- PG 6: Kipper had a key round his neck. It was the magic key.  
Biff was cross with Kipper.  
“Put the key back in the box,” she said.  
キッパーは鍵を首に下げていました。それはマジックキーでした。  
ビフはキッパーのことを怒りました。  
「鍵を箱に戻して」ビフは言いました。
- PG 7: Suddenly the key began to glow.  
“Look out Anneena,” said Biff. “This is a magic key and the magic is working.  
It’s time for an adventure.”  
突然、鍵が光り始めました。  
「気を付けて、アニーナ」とビフが言いました。  
「これはマジックキーで、魔法が働き出したの。冒険の時間よ」
- PG 8: The magic took the children to a wood. It was the wood where Robin Hood lived.  
The children could see Robin with some of his men.  
魔法の力で子どもたちは森の中にやってきました。それはロビン・フッドが住んでいる森でした。子どもたちは、ロビン・フッドと数人の仲間たちを見つけました。
- PG 9: Robin Hood had not seen the children. Anneena was frightened.  
“I hope he *is* a good man,” she said.  
“Come on,” said Kipper, “I can smell food.”  
ロビン・フッドは子どもたちに気づいていませんでした。アニーナは怯えています。  
「本当に良い人だといいいんだけど」  
「行ってみようよ」キッパーが言いました。「食べ物の匂いがする」
- PG 10: Robin Hood saw the children.  
“Who are you?” he asked. “Are you lost in the woods? Come and sit down.”  
ロビン・フッドは子どもたちに気づきました。  
「君たちは誰？」ロビンがたずねました。「森で迷子になったのかい？ ここに来て座りなさい」
- PG 11: The children sat by the fire.  
“We saw you in a play,” said Anneena. “We can sing a song about you.”

“Oh no!” said Kipper. “Not the song again.”

子どもたちは火のそばに座りました。

「私たち、あなたをお芝居で見たの」とアニーナが言いました。

「私たち、あなたの歌が歌えるのよ」

「あーあ！」キッパーが言いました。「また、あの歌か」

PG 12: Biff, Wilma, and Anneena sang the song. The song said everyone liked Robin but nobody liked the Sheriff. Robin Hood’s men gave a cheer.  
ビフとウィルマとアニーナが歌を歌いました。その歌は、みんなロビンのことが好きで、誰もシェリフのことは好きじゃないという歌詞でした。ロビン・フッドの仲間たちは歓声を上げました。

PG 13: “What a good song!” said Robin Hood. “Sing it to me again.”  
Kipper looked inside a big black pot. Nobody saw the Sheriff coming.  
「なんていい歌なんだ！」ロビン・フッドが言いました。  
「もう一度歌ってくれよ」  
キッパーは大きな黒いなべの中を覗きました。誰もシェリフが来ていることに気付いていませんでした。

PG 14: Suddenly the Sheriff’s men ran in.  
They grabbed Robin Hood and put a rope round him.  
“Got you at last!” said the Sheriff.  
突然シェリフの兵士たちがかけ込んできました。  
兵士たちはロビン・フッドを捕まえ、縄でしばりました。  
「やっと、捕まえたぞ！」シェリフが言いました。

PG 15: They jumped on Robin’s men and they grabbed Biff, Wilma, and Anneena.  
They put them all into a cart.  
“Take them away!” said the Sheriff.  
兵士たちはロビンの仲間に飛びかかり捕らえ、ビフ、ウィルマとアニーナも捕まえました。みんなは荷車にのせられました。  
「連れて行け！」シェリフが言いました。

PG 16: Kipper hid in the big black pot. The Sheriff’s men didn’t see him.  
“Oh no!” he said. “What can I do? I must help them.”  
キッパーは大きな黒いなべの中に隠れました。  
シェリフの兵士たちはキッパーには気づきませんでした。  
「大変だあ！」キッパーが言いました。「どうしよう、ぼくが助けなきゃ」

PG 17: The Sheriff took them to a village. He said, “My castle is too far away, so we will stop here. One of my men will see you don’t get away.”  
シェリフはみんなを村へ連れて行きました。「私の城はまだまだ遠い。ここ

で一泊しよう。お前たちが逃げないよう、兵士の一人を見張りにつけるからな」シェリフは言いました。

- PG 18: Kipper went up to the man. He gave the man a sweet.  
“What is that thing?” he asked.  
“You lock people up in it,” said the man.  
キッパーは見張りの兵士に近づきました。そして兵士にキャンディーを渡しました。  
「これは何？」キッパーがたずねました。  
「人を縛りつけて鍵をかけるものだ」兵士が言いました。
- PG 19: “You can’t lock people in that,” said Kipper.  
“You can’t get them in.”  
“Oh yes you can,” said the man. “Look.” He put in his head and his hands.  
「こんなので人に鍵をかけることなんて出来っこないよ」とキッパーが言いました。  
「人は入れられないよ」  
「それが、入るんだよ」兵士が言いました。  
「ほらね」兵士は自分の頭と手を入れました。
- PG 20: “Ha!” said Kipper. “You fell for it.”  
He locked the man in and took away his keys.  
“Grrr!” said the man.  
「ハハ！」キッパーが言いました。「引っかかったな」  
キッパーは兵士に鍵をかけ、鍵を取り上げました。  
「クーツ」兵士が言いました。
- PG 21: Kipper set them free.  
“Come on, everyone,” said Robin Hood. “Let’s go back to the woods. We don’t want the Sheriff to catch us.”  
キッパーはみんなを解放しました。  
「さあ、みんな」ロビン・フッドが言いました  
「森に帰ろう。シェリフに捕まりたくないからな」
- PG 22: They went to a new part of the woods.  
“Three cheers\* for Kipper,” said Robin Hood.  
“Now let’s sing that song about me again.”  
“Oh no!” said Kipper.  
みんなは森の新しい場所に移りました。  
「キッパーに歓呼三唱！」ロビン・フッドが言いました。  
「さあ、ぼくの歌をまた歌おう」  
「やれやれ！」キッパーが言いました。

(\*編集部注:three cheers とは、何か、誰かを称えて同じセリフを3回繰り返し唱えること。“Hip, hip, hooray!”と唱える場合が多い)

- PG 23: Suddenly the magic key began to glow. “Just in time,” said Kipper.  
“It’s time for us to go.”  
“Goodbye,” said the children.  
“Goodbye,” said Robin Hood, “and thanks.”  
突然、マジックキーが光り始めました。「ちょうどよかった」キッパーが言いました。  
「もう行く時間だ」  
「さようなら」子どもたちが言いました。  
「さようなら」ロビン・フッドが言いました。「そして、ありがとう」
- PG 24: “What an adventure!” said Anneena.  
“I liked Robin Hood and his men. Let’s sing the song.”  
“Aaaaaah!” said Kipper.  
「なんて冒険！」アニーナが言いました。  
「私ロビン・フッドと仲間たちが好き。あの歌を歌いましょう」  
「わああああ！」キッパーが言いました。

# The Treasure Chest 「宝箱」

- PG 1: Every week Mrs May took some of the children to the swimming pool. The children were good swimmers and they liked going with Mrs May. 毎週メイ先生は、数人の子どもたちをプールに連れて行きました。子どもたちは水泳が上手で、メイ先生と行くのが好きでした。
- PG 2: The children were taking a swimming test. “It’s time to begin,” said Mrs May. “Who wants to go first?” “We do,” said Nadim. 子どもたちは泳ぎのテストを受けていました。「さあ、始めますよ」とメイ先生が言いました。「最初に泳ぎたい人は？」「ぼく達が泳ぎます」とナディムが言いました。
- PG 3: Biff, Chip, Wilma, and Nadim jumped into the pool. The water was warm. “Off you go,” called Mrs May. ビフ、チップ、ウィルマとナディムがプールに飛び込みました。水はあたたかでした。「さあ、始めて」メイ先生が言いました。
- PG 4: They had to swim up and down the pool. They had to swim ten lengths. Wilma was first to swim ten lengths and Biff and Nadim were next. 子どもたちはプールを泳いで、行ったりきたりしなければなりませんでした。端から端まで泳ぐのを十回繰り返さなければなりませんでした。ウィルマが十回を最初に泳ぎきり、ビフとナディムがそれに続けました。
- PG 5: It was hard for Chip to swim the ten lengths. “Come on, Chip,” called Mrs May. “Don’t stop. This is the last length.” So Chip went on and everyone was pleased. チップにとって十回(五往復)は大変でした。「がんばって、チップ」メイ先生が言いました。「止まらないで。これが最後よ」そこでチップはがんばって泳ぎ続け、見ていたみんなも嬉しくなりました。
- PG 6: Next they had to swim to the bottom of the pool. They had to pick up a brick and swim with it to the top. 次に子どもたちはプールの底まで泳いでいかなければなりませんでした。レンガを一つ拾って水面まで持って上がらなくてはなりませんでした。
- PG 7: All the children passed the swimming test. Mrs May was very pleased.

“Well done, everyone,” she said. The children were pleased too.

子どもたち全員が泳ぎのテストに合格しました。

メイ先生はとても喜びました。

「皆さん、よくがんばりましたね」先生が言いました。子どもたちも喜びました。

PG 8: Biff and Chip told Mum and Dad about the swimming test.

“We passed,” they said. Mum and Dad were very pleased too.

ビフとチップはママとパパに泳ぎのテストのことを話しました。

「合格したよ」二人は言いました。ママもパパも、とても喜びました。

PG 9: Mum and Dad had a surprise for them.

Biff and Chip couldn't see what the surprise was.

“What is it?” asked Biff.

ママとパパから二人に予期せぬごほうびがありました。

ビフとチップにはそのごほうびが何なのか見えませんでした。

「それ、何？」ビフがたずねました。

PG 10: “It's a fish tank,” said Biff. “What a lovely surprise!”

Everyone looked at the fish swimming about in the tank.

「水槽だわ」ビフが言いました。「なんて素敵なおほうびなの！」

みんなは水槽の中で泳ぐ魚を眺めました。

PG 11: “There is room for more fish,” said Dad.

“We can get some next time we go shopping.”

「もっと魚を入れる余裕があるな」パパが言いました。

「今度買い物に行ったときに何匹か買おう」

PG 12: The next day they went shopping. Dad took them to a shop that sold fish.

“What a lovely shop!” said Biff. “Look at all the fish.”

次の日みんなは買い物に出かけました。パパは魚を売っている店に子どもたちを連れて行きました。

「なんて、素敵なお店なの」ビフが言いました。「見て見て、魚がいっぱい」

PG 13: There were big fish and little fish. Kipper liked the big fish in a tank.

“Don't tap the glass,” said Dad. “The fish don't like it”

大きな魚もいれば小さな魚もありました。キッパーは水槽の中の大きな魚が気に入りました。

「ガラスを叩いちゃだめだぞ」パパが言いました。「魚が嫌がるから」

PG 14: Dad put some more fish in the tank. He put rocks on the bottom.

Next to the rocks he put a ship and a little box.



パパは魚を何匹か水槽に加えました。それから岩を水底に置きました。岩の横には一隻の船と小さな箱を置きました。

- PG 15: Wilma and Nadim came to see the fish tank.  
“It looks lovely,” said Wilma. “I wish I could swim in there.”  
ウィルマとナディムが水槽を見に来ました。  
「素敵だわ」とウィルマが言いました。「この中で泳げたらいいのに」
- PG 16: They went to play in Biff’s room. Chip ran in with the magic key.  
The key was glowing.  
“It’s time for an adventure,” said Biff.  
子どもたちはビフの部屋に遊びに行きました。チップがマジックキーを手  
に駆け込んできました。鍵は光っていました。  
「冒険の時間ね」とビフが言いました。
- PG 17: The magic began to work. It took the children into a new adventure.  
This time it was a different sort of adventure.  
魔法の力が働き始めました。子どもたちは新しい冒険へ出発しました。  
今回はいつもとは、ちょっと違う冒険でした。
- PG 18: The magic took them underwater. The children had masks and flippers  
and tanks of air. They could swim underwater.  
魔法の力で子どもたちは水の中へとやってきました。子どもたちはマスク  
と、水かきと、酸素ボンベをつけていました。みんなは水の中で泳ぐことが  
できました。
- PG 19: The children had never seen so many fish. They were all different colours.  
“This is better than the pool,” thought Chip.  
“I feel like a fish,” thought Wilma.  
子どもたちはこんなにたくさんの魚を見たことがありませんでした。  
魚は一つ一つ違った色をしています。  
「これはプールよりいいぞ」チップは思いました。  
「魚になった気分だわ」ウィルマは思いました。
- PG 20: The children loved swimming under the water.  
It was lovely to see all the fish and to swim with them.  
子どもたちは水中で泳ぐのが大好きでした。  
たくさんの魚を見たり、一緒に泳ぐのはとてもいい気持ちでした。
- PG 21: Chip and Nadim swam to the bottom and picked up a big shell.  
Biff looked at a jellyfish but she didn’t swim too close.  
チップとナディムは水底まで泳いで、大きな貝殻を拾いました。

ビフはくらげを見ましたが、あまり近づきはしませんでした。

- PG 22: They saw a ship under the water.  
It was an old ship that had been under the water for a long time.  
子どもたちは水中で一隻の船を見つけました。  
それは長い間、水底にあった古い船でした。
- PG 23: They swam up to the ship. Wilma didn't want to swim too close to it.  
It looked dangerous.  
子どもたちは船まで泳いで行きました。ウィルマはあまり近づきたくはありませんでした。危険に思えたからです。
- PG 24: They saw an octopus. Oh no! It was sitting on a chest.  
They couldn't look inside the chest with an octopus sitting on the lid.  
子どもたちはタコを見つけました。大変！タコは箱の上に座っています。  
タコがふたの上に乗っているせいで、箱の中を見ることが出来ません。
- PG 25: They blew bubbles at the octopus.  
The octopus didn't like the bubbles so it swam away.  
"Good!" thought the children. "Now we can look inside."  
子どもたちは、タコに向かって泡を吹きました。  
タコは泡が嫌いだったので、泳いで逃げてしまいました。  
「やった！」子どもたちは思いました。「これで中が見られるぞ」
- PG 26: The children opened the chest and looked inside.  
It was a treasure chest and it was full of gold.  
子どもたちは箱を開けて、中を見ました。  
それは宝箱で、金がいっぱい詰まっていました。
- PG 27: Biff and Wilma pushed the chest over and all the gold fell out.  
Nadim picked up a necklace and Biff picked up a gold cup.  
ビフとウィルマが箱をひっくり返すと、金がすべて飛び出しました。  
ナディムはネックレスを拾い、ビフは金の杯を拾いました。
- PG 28: Biff and Nadim were busy looking at the treasure. They didn't see what Chip and Wilma saw. A shark was coming.  
ビフとナディムは宝物に目をうばわれていました。二人はチップとウィルマには見えていたものに気づきませんでした。サメが近づいてきていたのです。
- PG 29: Chip and Wilma couldn't tell Biff and Nadim.  
They pulled them away and pointed at the shark.

チップとウィルマはビフとナディムに、そのことをことばで教えてあげることが出来ませんでした。二人はビフとナディムを引っ張って、サメを指差しました。

- PG 30: The children were frightened. They swam and swam but the shark swam after them. Then the magic key began to glow.  
子どもたちはぎょっとしました。必死で泳ぎ続けましたが、後からサメが追って来ます。その時、マジックキーが光り始めました。
- PG 31: The magic key took them out of the adventure.  
“Wow! What an adventure!” said Biff.  
“The treasure chest was like the one in our fish tank.”  
マジックキーは、みんなを冒険から連れ出しました。  
「うわ！なんて冒険だ！」ビフが言いました。  
「あの宝箱は、うちの水槽の中にあるのと似ていたわ」
- PG 32: The children ran to look in the fish tank.  
“Look, there’s the treasure,” said Chip.  
“How did it get there?” asked Nadim.  
“It’s magic!” said Biff.  
子どもたちは水槽の中を見ようとかけ寄りました。  
「見て、宝物があるよ」チップが言いました。  
「どうしてここにあるのかな？」ナディムが聞きました。  
「魔法よ！」ビフが言いました。

## **Oxford Reading Tree** Level 6 More Stories A

- ① A Fright in the Night 「夜の恐怖」
- ② Mirror island 「鏡の島」
- ③ The Laughing Princess 「笑うお姫様」
- ④ Christmas Adventure 「クリスマスの冒険」
- ⑤ The Go-kart Race 「ゴーカート・レース」
- ⑥ The Shiny Key 「ピカピカの鍵」

# A Fright in the Night 「夜の恐怖」

- PG 1: Biff and Chip went to stay with Gran.  
They went to stay for a week.  
"Be good," called Mum.  
"Don't worry" said Gran. "I will"  
ビフとチップはおばあちゃんの所へ泊まりに行きました。  
二人は一週間滞在しました。  
「お行儀よくしてるのよ」とママが言いました。  
「心配しないで」とおばあちゃんが言いました。「お行儀よくしてるよ」
- PG 2: Gran's house was small. It had two bedrooms. Biff and Chip had to sleep in the same bedroom.  
おばあちゃんの家は小さな家でした。寝室は二つです。  
ビフとチップは、同じ寝室で寝なければなりませんでした。
- PG 3: Biff wanted the bed by the door. Chip wanted the bed by the window.  
"That's good," said Gran.  
ビフはドアのそばのベッドで寝たがりました。  
チップは窓のそばのベッドで寝たがりました。  
「それは良かった」おばあちゃんが言いました。
- PG 4: Gran took Biff and Chip for a walk. They went to the woods.  
Biff saw some blackberries. She wanted to pick some.  
おばあちゃんはビフとチップを散歩に連れて行きました。  
みんなは森へ行きました。  
ビフはブラックベリーを見つけました。いくつか摘みたいと思いました。
- PG 5: Gran had some plastic bags. She gave one to Biff and Chip.  
"We can make some blackberry jam," she said.  
おばあちゃんはビニール袋を持っていました。おばあちゃんは、その袋を一枚、ビフとチップに渡しました。  
「ブラックベリージャムを作ろうかね」おばあちゃんが言いました。
- PG 6: Gran made the blackberry jam. Biff and Chip helped.  
Chip made some labels and Biff licked the spoon.  
おばあちゃんはブラックベリージャムを作りました。ビフとチッ

プも手伝いました。チップはラベルを作り、ビフはスプーンをなめました。

- PG 7: They made nine jars of jam.  
“You can take a jar home for Kipper,” said Gran.  
“And a jar for Wilf and Wilma.”  
ジャムの壺が九つできました。  
「キッパーに一つ持って帰ってね」おばあちゃんが言いました。  
「そして、ウィルフとウィルマにも一つ」
- PG 8: The children loved Gran’s house. It was very old.  
It had a big fireplace. Biff helped Gran light the fire.  
子どもたちは、おばあちゃんの家が大好きでした。それはとても古い家でした。大きな暖炉がありました。ビフはおばあちゃんが火をつけるのを手伝いました。
- PG 9: Chip helped Gran get some logs.  
“Do you have ghosts?” he asked. Gran laughed.  
“There are no such things,” she said.  
チップはおばあちゃんが丸太を取りに行くのを手伝いました。  
「ここに幽霊はいる？」チップがたずねました。おばあちゃんは笑いました。  
「そんなもの、いないよ」おばあちゃんは言いました。
- PG 10: They sat by the fire. Gran made some toast. Biff wanted to try the new jam.  
“It’s still too hot,” said Gran.  
みんなは暖炉のそばに座りました。おばあちゃんはトーストを焼きました。ビフは新しいジャムを試してみたいと思いました。  
「まだ、熱すぎるよ」とおばあちゃんが言いました。
- PG 11: Chip had a new game. It was called Haunted House.  
“Can we play Haunted House, before we go to bed?” he asked.  
チップは新しいゲームを持っていました。『幽霊屋敷』という名前のゲームです。  
「ベッドに入る前に『幽霊屋敷』で遊んでもいい？」チップがたずねました。
- PG 12: It was time for bed. Gran got Chip a hot water bottle.  
“Is the house haunted?” asked Biff.  
寝る時間になりました。おばあちゃんはチップに湯たんぽを用意してあげました。

「この家には幽霊が出るの？」と、ビフが聞きました。

- PG 13: “Don’t worry,” laughed Gran.  
“I don’t have ghosts in my house. There are no such things”  
「心配しないで」とおばあちゃんが笑いました。  
「私の家には幽霊なんていないわ。そんなもの、存在しないのよ」
- PG 14: Biff and Chip couldn’t sleep. Biff had an idea. She wanted to play a joke on Chip. She had a torch in the bed.  
ビフとチップは眠れませんでした。ビフはあることを思いつきました。ビフはチップにいたずらを仕掛けようとして、そして、懐中電灯をベッドの中に入れました。
- PG 15: Biff put the sheet over her head. She switched on the torch. The sheet glowed.  
“Whooooooo! I am a ghost,” said Biff.  
ビフは頭からシーツをかぶり、懐中電灯をつけました。シーツが光りました。  
「うー！ 幽霊だぞう」ビフは言いました。
- PG 16: Chip laughed. He wasn’t frightened. He pulled the sheet off Biff.  
“That was a good joke,” he said.  
チップは笑いました。チップは怖がらなかったのです。  
チップは、ビフのシーツを引っ張りました。  
「愉快ないたずらだったね」とチップは言いました。
- PG 17: Biff and Chip heard a noise. It came from outside.  
“Whoooo! Whoooo!” went the noise.  
“Oh no!” said Biff. “It’s a ghost.”  
ビフとチップに何かの音が聞こえてきました。それは外から聞こえてきました。  
「ホー！ ホー！」という音です。  
「どうしよう！」とビフが言いました。「幽霊よ」
- PG 18: Chip looked out of the window.  
“It’s not a ghost!” he laughed. “It’s an owl. Come and look.”  
チップは窓の外を見ました。  
「幽霊じゃないよ」チップが笑いました。  
「ふくろうだ。来て、見てごらんよ」
- PG 19: Biff and Chip looked outside.  
“Oh no!” said Chip. “I can see a ghost. It is a ghost this time.”

ビフとチップは外を見ました。「どうしよう！」チップが言いました。「幽霊が見える。今度はほんとうに幽霊だ」

- PG 20: Biff and Chip ran to Gran's room.  
"Gran! Gran!" called Biff. "There's a ghost outside."  
But Gran wasn't in bed.  
ビフとチップはおばあちゃんの部屋へと走りました。  
「おばあちゃん！ おばあちゃん！」とビフが呼びました。  
「幽霊が外にいる！」  
でも、おばあちゃんはベッドにはいませんでした。
- PG 21: Biff and Chip ran downstairs. "Gran!" called Biff.  
"Where are you? We've seen a ghost."  
But Gran wasn't downstairs.  
ビフとチップは一階へ駆け下りました。「おばあちゃん！」  
ビフが呼びました。「どこにいるの？ 私たち幽霊を見たのよ」  
でも、おばあちゃんは一階にもいませんでした。
- PG 22: The door opened. Biff and Chip were frightened.  
"Oh no!" they said.  
Gran came in.  
ドアが開きました。ビフとチップは怯えました。  
「どうしよう！」と二人は言いました。  
おばあちゃんが入って来ました。
- PG 23: "We were frightened," said Chip. "You looked like a ghost."  
Gran laughed.  
"I'm not a ghost," she said.  
「怖かったよ」とチップが言いました。  
「おばあちゃんが幽霊に見えたんだ」  
おばあちゃんは笑いました。  
そして、「私は幽霊じゃないよ」と言いました。
- PG 24: "I don't have ghosts," said Gran. "But I do have two little monsters!"  
Gran laughed and so did Biff and Chip.  
「幽霊なんて飼ってないよ」と、おばあちゃんは言いました。  
「でも 2 匹の小さな怪獣は飼っているわ！」  
おばあちゃんは笑い、ビフとチップも笑いました。



## Mirror Island 「鏡の島」

- PG 1: Chip was in his bedroom. He was busy drawing.  
“Chip!” Called Biff. “Wilf and Wilma are here!”  
チップは寝室にいました。絵をかくの夢中でした。  
「チップ!」とビフが呼びました。「ウィフルとウィルマが来てるわよ」
- PG 2: Chip went downstairs. Chip showed them his drawing. He had made a pattern.  
“What is it?” asked Wilf.  
チップは一階へ降りて行きました。チップはみんなに自分の絵を見せました。チップは模様のようなものを描いていました。  
「それは何？」ウィルフが尋ねました。
- PG 3: “It looks like a word,” said Wilma. “Come up to my room,” said Chip  
“Then I can show you.” They went up to Chip’s room.  
「言葉のようにみえるわ」をウィルマが言いました。  
「僕の部屋においでよ」チップは言いました。「そうしたら、見せてあげる」みんなはチップの部屋に上がって行きました。
- PG 4: Chip put a mirror on the paper. The pattern said “Chip” in mirror writing.  
Biff wanted to do some mirror writing but Chip had run out of paper.  
チップはその紙の上に鏡を置きました。鏡に映った文字では、その模様は「チップ」と読めました。ビフは鏡文字を書いてみたいと思いましたが、でも、チップはすでに紙を使い切っていました。
- PG 5: Biff went to her room to get some paper. The magic key was glowing. It was time for an adventure. “Come here everybody,” she called.  
ビフは紙を取りに自分の部屋に行きました。マジック・キーが光っていました。冒険に出る時間でした。「みんなこっちへ来て」と彼女は呼びました。
- PG 6: The magic took them to an island. “We have been here before.” said Wilma. “We met some pirates,” said Wilf.  
魔法の力で子供たちはある島へとやって来ました。「私たち以前にここにきたことがあるわ」ウィルマが言いました。「僕たちはここで海賊たちに出会ったわ」ウィルフが言いました。

- PG 7: Wilma saw some footprints in the sand. "There must be someone on the island," she said. "Oh help!" said Wilf. "There he is."  
ウィルマは砂についたいくつかの足跡に気が付きました。「島には誰かいるにちがいないわ」と彼女は言いました。「わあ、助けて！あそこに男の人がいる」ウィルフが言いました。
- PG 8: "He looks fierce," said Biff. "Run for it!" The children began to run. "Stop!" called the man. "Come back!" And he began to cry.  
「あの人乱暴そうだわ」ビフが言いました。「逃げよう！」子どもたちは駆け出しました。「待って！」その男の人は声をあげました。「戻ってきてくれ！」そして、泣き始めました。
- PG 9: "Why are you crying?" asked Wilma. "Do I frighten you?" asked the man. "Yes," said Biff. "You look so fierce. You have such long hair."  
「どうして泣いているの？」をウィルマが尋ねました。「私は君たちを怖がらせているかい？」とその男の人は尋ねました。「ええ。あなたはとても怖そうに見えるわ。そんなに長い髪をしているんですもの」とビフはいいました。
- PG 10: "I don't look that bad, do I?" asked the man. Chip gave him the mirror. The man looked in it.  
「私はそんなにひどくは見えないうらう？」とその男は尋ねました。チップは鏡を差し出しました。その男は鏡を覗き込みました。
- PG 11: "Oh no!" screamed the man. "I look terrible! No wonder you were frightened." He began to cry again.  
「ああ何てことだ！」と男は悲鳴をあげました。「私は何てひどい様をしているんだ！君たちが怖がるのも無理はない」彼はふたたび泣き出しました。
- PG 12: "My name is Captain Crow," he said. "I've been alone for ten months and six days. My crew took the ship"  
「私の名前はキャプテン・クロウ。10か月と6日の間、たった一人だったんだ。乗組員が船を取って行ってしまったんだ」と彼は言いました。
- PG 13: "Why did they do that?" asked Wilf. "We couldn't find the treasure," said Captain Crow. "They said I was useless."  
「何故彼らはそんなことをしたの？」ウィルフが尋ねました。「われわれは宝物をみつける事ができなかったんだ。彼らは私の事を役立つはずと言ったよ。」とキャプテン・クロウは言いました。

- PG 14: Captain Crow had a treasure map. The children looked at it. “It looks odd,” said Captain Crow. “I couldn’t understand it.”  
キャプテン・クロウは宝物の地図を持っていました。子どもたちはそれを見ました。「奇妙な地図なんだ。私にはそれが解読できなかった」キャプテン・クロウは言いました。
- PG 15: “Look at these funny words,” said Biff. “What do they mean?”  
“I think I understand it,” said Chip. “It’s in mirror writing!”  
「このおかしな言葉を見て。どういう意味なのかしら？」ビフは言いました。  
「僕わかったと思う」チップが言いました。「鏡文字になっているんだ！」
- PG 16: Chip put the mirror on the map. Captain Crow could read the writing. “It says, *Here lies the treasure*,” he said. He began to run.  
チップは地図の上に鏡を置きました。すると、キャプテン・クロウは書いてある文字を判読できました。『ここに宝物が眠っている』と書いてある」と言いました。そして、駆け出しました。
- PG 17: “Where are you going?” said Biff. “To get my spade!” said Captain Crow. “Come on!” said Wilma. “It looks as if we have some digging to do.”  
「どこへ行くつもりなの？」ビフが言いました。「シャベルを取りに行くのさ！」キャプテン・クロウが言いました。「行きましょう！」ウィルマがいいました。「私たちには掘る仕事があるみたいよ」
- PG 18: Captain Crow looked at the map. “This is the place to dig,” he said. He dug and dug. Soon he had dug a deep hole.  
キャプテン・クロウはその地図を見ました。「ここが掘るべき場所だ」と彼は言いました。彼はどんどん掘りました。間もなく深い穴が掘りあがりました。
- PG 19: At last the spade hit a wooden box. “It’s a big chest,” said Captain Crow. “Thanks to you and your mirror, I’ve found the treasure!”  
ついにシャベルが木の箱に当たりました。「大きな箱だ」とキャプテン・クロウは言いました。  
「君たちと君たちの鏡のおかげで、私は宝物を探し当てたよ！」
- PG 20: Captain Crow opened the chest. Everyone gasped. It was full of gold and silver. “Hooray!” shouted Captain Crow. “I’m rich!”  
キャプテン・クロウは箱を開けました。全員が息をのみました。それは金と銀でいっぱいでした。「万歳！」キャプテン・クロウは叫びました。「私は大金持ちになったぞ！」

- PG 21: Wilma saw a ship. It was sailing past the island.  
“Help! Shouted Captain Crow. “I’m over here. Come and rescue me!”  
ウィルマが一艘の船に気付きました。それは島を通り過ぎていこうとしていました。  
「助けて！」キャプテン・クロウは叫びました。「私はここにいる。助けに来てくれ！」
- PG 22: “It can’t see you,” said Wilf. Wilma had a good idea.  
“Use the mirror,” she cried. “Flash it at the Ship!”  
「船からは、あなたが見えないのです」とウィルフは言いました。ウィルマがいい考えを思いつきました。「鏡を使って」ウィルマは叫びました。「その船めがけて光を反射させるのよ！」
- PG 23: The ship flashed back at Captain Crow.  
“Now I can leave the island!” he yelled.  
“Help me hide the treasure. I will come back for it one day.”  
その船はキャプテン・クロウに合図を返してきました。  
「やっと私はこの島から出る事ができる！」彼は叫びました。  
「宝物を隠すのを手伝ってくれないか。いつかまた取りに戻ってくるよ」
- PG 24: The magic key began to glow. “It’s time for us to go,” said Biff.  
“You can keep the mirror,” said Chip, “to have a shave and a haircut!”  
マジック・キーが光り始めました。「さあ私たちも帰る時間よ」とビフが言いました。  
「その鏡は持っていていいですよ。」とチップは言いました。  
「髭を剃って髪を切るためにね！」

# The Laughing Princess 「笑うお姫様」

- PG 1: Chip had a new book. It was about a princess who couldn't laugh. Nobody could make her laugh.  
チップは新しい本を持っていました。それは、笑うことのできないお姫様のお話でした。誰にもお姫様を笑わせることができなかったのです。
- PG 2: Chip had an idea. "Try and make me laugh," he said. Biff made a funny face, but she couldn't make Chip laugh. チップはあることを思いつきました。「ぼくを笑わせてごらん」とチップは言いました。ビフがこっけいな顔をしましたが、チップを笑わせることはできませんでした。
- PG 3: Biff put on a funny wig. She told a funny joke, but she still couldn't make Chip laugh. "It's no good," she said. ビフはおかしなかつらを着けました。そしておかしなジョークを言いましたが、それでもチップを笑わせることはできませんでした。「だめだわ」とビフが言いました。
- PG 4: Kipper had some joke teeth. The joke teeth were new. The teeth went click, click, click. Everyone laughed and laughed. キッパーがおもちゃの歯を持って来ました。新品です。歯はカチカチカチと音を立てました。みんなは大笑いしました。
- PG 5: The magic key began to glow. The children ran into Biff's room. The magic took them on a new adventure. マジックキーが光り始めました。子どもたちはビフの部屋へ駆け込みました。魔法の力は、みんなを新しい冒険に連れて行きました。
- PG 6: The children were in a village. They saw a notice on a tree. It was about a princess who couldn't laugh. 子どもたちは、ある村にいました。みんなは木にお触れ書きが貼られているのを見つけました。それは、笑えないお姫様についてのお触れ書きでした。
- PG 7: Kipper had an idea. He still had the joke teeth. "I can make the princess laugh," he said. キッパーによい考えがうかびました。キッパーはまだジョークの

歯を持っています。

「ぼくがお姫様を笑わせられるよ」とキッパーは言いました。

- PG 8: The king was in the village. A girl told him a joke.  
“That’s not funny,” said the king.  
“That won’t make the princess laugh.”  
王様が村に来ていました。女の子が王様にジョークを言いました。  
「おもしろくないぞ」王様が言いました。  
「それでは、姫は笑わん」
- PG 9: “Who’s next?” called the king.  
“I am,” said a man.  
“Oh no!” groaned the king. “Not another chicken!”  
「次は誰だ？」王様が呼びかけました。  
「私でございます」男の人が言いました。  
「やれやれ！」王様がうなりました。「また、にわとりだ！」
- PG 10: The children went to the king.  
“We can make the princess laugh,” said Biff.  
“How?” asked the king.  
子どもたちは王様のところへ行きました。  
「私たちが、お姫様を笑わせられるわ」ビフが言いました。  
「どうやってだい？」王様がたずねました。
- PG 11: The teeth went click, click, click. Everyone laughed and laughed.  
“That will make the princess laugh,” said the king.  
ジョークの歯が、カチカチカチと音を立てました。  
みんなが大笑いをしました。  
「これなら姫を笑せられるだろう」王様は言いました。
- PG 12: Kipper dropped the teeth.  
A dog caught them and ran off with them in its mouth.  
キッパーが歯を落っことしてしまいました。  
犬がそれを拾い、口にくわえて走り出しました。
- PG 13: “Stop that dog!” shouted the king. “Stop that dog and get the teeth.”  
Everyone ran after the dog.  
“Get the teeth!” shouted the king.  
「あの犬を止めよ！」王様が叫びました。「犬を捕まえて歯を取り戻すのだ」  
みんなは犬の後を追いかけてきました。  
「歯を手に入れよ！」王様が叫びました。

- PG 14: The dog was too fast. Nobody could catch it.  
“Stop that dog!” shouted the king.  
犬はあまりにもすばしこかったので、誰にも捕まえることができませんでした。  
「あの犬を止めよ！」王様が叫びました。
- PG 15: The dog ran this way and that. People tried to grab it, but it was too fast.  
“Get the teeth!” shouted Kipper.  
犬は四方八方を走り回りました。  
人々は取りおさえようとしたが、犬の動きが速すぎました。  
「歯を取り戻して！」キッパーが叫びました。
- PG 16: The king ran after the dog. Everyone ran after the king.  
The king fell over.  
王様が犬の後を追いかけてました。人々が王様の後を追いかけてました。王様は転んでしまいました。
- PG 17: The dog saw a bone and it stopped.  
Chip grabbed the dog and the dog dropped the teeth.  
犬は骨を見つけて、立ち止まりました。  
チップが犬をつかむと、犬は歯を落としました。
- PG 18: Kipper picked up the joke teeth. Everyone looked at them.  
The teeth were broken.  
“Oh no!” said the king.  
キッパーはおもちゃの歯を拾い上げました。みんなが歯を見ました。歯は壊れていました。  
「なんということだ！」王様が言いました。
- PG 19: The king put the teeth on a cushion. “What a pity!” he said.  
“Now they won’t make the princess laugh.”  
王様はクッションの上に歯を置きました。  
「なんと残念なことだろう！」王様が言いました。  
「これでは、姫を笑わせることはできませんまい」
- PG 20: The princess heard the noise. She looked out of a window.  
She saw the king and she started to laugh.  
お姫様が騒ぎの音を聞きつけて、窓の外を見ました。  
お姫様は王様を見ると、笑い出しました。

- PG 21: The king had mud on his clothes. He had the teeth on the cushion. He looked so funny that the princess laughed and laughed.  
王様の服は泥で汚れていました。王様はクッションの上に置かれた歯を持っていました。王様の姿があまりにもこっけいだったので、お姫様は笑いころげました。
- PG 22: The king looked at the princess.  
“I’ve made the princess laugh,” he said. Everyone laughed and cheered.  
王様はお姫様を見ました。  
「わしが姫を笑わせたのじゃ」王様が言いました。  
みんなが笑って喜びました。
- PG 23: The magic key began to glow. The magic took the children home. But nobody saw the children go. Everyone was laughing.  
マジックキーが光り始めました。魔法の力は子どもたちを家に連れ戻しました。でも、子どもたちがいなくなるところは誰も見ていませんでした。全員が大笑いしている最中でしたから。
- PG 24: “What made the princess laugh?” asked Kipper.  
“I don’t know,” said Chip, “but people laugh at silly things.”  
「何がお姫様を笑わせたの？」とキッパーが聞きました。  
「分からない」とチップが言いました。「でも、入ってばかばかしいことで笑うんだよ」



# Christmas Adventure 「クリスマスの冒険」

- PG 1: It was Christmas Eve.  
The children were excited, but Mum was hot and Dad was cross.  
“Christmas is hard work,” said Dad.  
クリスマス・イヴのことです。  
子どもたちは興奮していましたが、ママはかっかして、パパはごきげんななめでした。  
「クリスマスは大仕事だよ」とパパが言いました。
- PG 2: Dad put up some decorations. He wanted the children to help, but they didn't want to. They were watching television.  
パパが飾りつけをしました。パパは子どもたちに手伝ってほしかったのですが、子どもたちはやりたくありませんでした。子どもたちはテレビを見ている最中だったのです。
- PG 3: Dad turned off the television.  
“Oh!” said Kipper. “We were watching a good program.”  
“It's time to help,” said Dad.  
パパがテレビを消しました。  
「あーあ！」キッパーが言いました。「いい番組を見ていたのに」  
「手伝いの時間だよ」パパは言いました。
- PG 4: Just then, Wilf and Wilma came.  
They had presents for Biff, Chip and Kipper.  
“We can help later,” said Chip.  
ちょうどその時、ウィルフとウィルマがやって来ました。二人はビフとチップとキッパーへのプレゼントを持っていました。「ぼくたち、後でお手伝いするからね」チップが言いました。
- PG 5: Biff and Chip had presents for Wilf and Wilma.  
“Don't open them until tomorrow,” said Biff.  
ビフとチップもウィルフとウィルマにプレゼントがありました。  
「明日まで、開けちゃダメよ」ビフが言いました。
- PG 6: The magic key began to glow.  
“It's time for a magic adventure,” said Chip.  
“I hope it's a Christmas adventure.”  
マジックキーが光り始めました。「魔法の冒険の時間だ」とチップが言

いました。「クリスマスの冒険だといいな」

- PG 7: The magic key took the children to the land of Father Christmas.  
“Hooray!” said Wilf. “We can tell Father Christmas what to bring us.”  
マジックキーは子どもたちをサンタクロースの国へ連れて行きました。  
「やった！」ウィルフが言いました。「ぼくたち、サンタクロースに、何が欲しいか伝えられるね」
- PG 8: The children were excited. They all wanted special presents.  
“I want a new bike,” said Kipper.  
“I want a new skateboard,” said Biff.  
子どもたちは喜びました。みんなとびっきりのプレゼントが欲しかったのです。  
「ぼくは新しい自転車が欲しい」キッパーが言いました。  
「私は新しいスケート・ボードが欲しいな」ビフが言いました。
- PG 9: The children rang the door bell.  
They rang and rang, but nobody came to the door.  
“That’s funny!” said Chip.  
子どもたちはドアのベルを鳴らしました。  
みんなは何度も何度も鳴らしましたが、誰も出て来ませんでした。  
「おかしいぞ！」チップが言いました。
- PG 10: The children looked for Father Christmas, but he was not there.  
There was nobody there.  
“Where is everyone?” asked Wilma.  
子どもたちはサンタクロースを探しましたが、いませんでした。そこにはまったく誰もいなかったのです。  
「みんなはどこへ行ったんだろう？」ウィルマが聞きました。
- PG 11: The children were disappointed.  
“It’s not fair,” said Chip.  
“I wanted to ask Father Christmas for a computer.”  
子どもたちはがっかりしました。  
「不公平だ」チップが言いました。  
「ぼく、サンタクロースにコンピューターを頼みたかったのにな」
- PG 12: The children looked for Father Christmas. They came to his house.  
“May be he’s in here,” said Kipper.  
子どもたちはサンタクロースを探しました。そして、サンタクロースの家にやって来ました。  
「もしかしたら、ここにいるかもしれないね」とキッパーが言い

ました。

- PG 13: The children went inside. An old man was asleep in a chair.  
“It’s Father Christmas,” said Wilf. “Why is he asleep in a chair?”  
子どもたちは中へ入りました。年とった男の人が椅子で眠っていました。  
「サンタクロースだ」とウィルフが言いました。  
「どうして椅子で眠っているんだろう？」
- PG 14: Biff looked at the date. “It’s the 25<sup>th</sup> of December,” she said.  
“Father Christmas must be tired. He’s been at work all night.”  
ビフは日づけを見ました。「今日は 12 月 25 日だわ」ビフが言いました。  
「サンタさんは疲れているのよ。一晩中働いていたんだもの」
- PG 15: Suddenly, Father Christmas woke up.  
“What are you doing here?” he asked.  
“It’s Christmas Day. Did I forget to call at your house?”  
その時、サンタクロースが目を覚めました。  
「君たちはここで何をしているんだい？」とサンタクロースが聞きました。  
「今日はクリスマスだね。私は、君たちの家に行くのを忘れたのかい？」
- PG 16: Father Christmas hadn’t put up his decorations.  
“I’ve been too busy. It’s the same every year,” he said.  
サンタクロースは、まだ、クリスマスの飾り付けをしていませんでした。  
「わしは忙しすぎてね。毎年のことだよ」サンタクロースは言いました。
- PG 17: Father Christmas had no Christmas dinner.  
“I didn’t have time,” he said. “Children want so many presents.”  
サンタクロースには、クリスマスのご馳走がありませんでした。  
「時間がなかったんだ」とサンタクロースは言いました。  
「子どもたちが、すごくたくさんプレゼントを欲しがるのでね」
- PG 18: The children were sorry for Father Christmas.  
They found a Christmas tree and put it up.  
子どもたちはサンタクロースが気の毒になりました。  
みんなはクリスマスツリーを見つけ、それを立てました。
- PG 19: They found some decorations and put them up.

“I haven’t had decorations up for years,” said Father Christmas.  
みんなは、飾りの小物を見つけ、それを飾りつけました。  
「わしはもう長いこと、飾りつけなんてしてなかったよ」サンタクロースが  
言いました。

- PG 20: Wilma and Chip made some strawberry jam sandwiches.  
Father Christmas found some lemonade and some crackers.  
ウィルマとチップがイチゴジャムのサンドイッチを作りました。  
サンタクロースがレモネードとクラッカーを見つけました。
- PG 21: Father Christmas put on his red coat.  
“Ho! Ho! Ho!” he laughed. Everyone cheered.  
サンタクロースが赤いコートを身に着けました。  
「ホッ！ ホッ！ ホッ！」サンタが笑いました。みんなは歓声を上げま  
した。
- PG 22: “Thank you,” said Father Christmas.  
“Most children just want things, but you’ve given me a good  
Christmas.”  
「どうもありがとう」と、サンタクロースが言いました。  
「ほとんどの子どもたちは、物を欲しがただけだ。だが、君たちはわしに  
すてきなクリスマスを贈ってくれた」
- PG 23: Just then, the key began to glow.  
“Happy Christmas,” said everyone.  
“Good bye,” said Father Christmas. “Thank you for everything.”  
その時です、鍵が光り始めました。  
「ハッピー・クリスマス」みんなが言いました。  
「さようなら」サンタクロースが言いました。  
「本当にいろいろとありがとう」
- PG 24: The magic took the children home.  
It was Christmas Eve again.  
“What else can we do to help?” asked Chip.  
魔法の力で子どもたちは家に戻って来ました。  
またもや、クリスマス・イヴでした。  
「他に何を手伝ったらいい？」とチップが聞きました。

# The Go-kart Race 「ゴーカート・レース」

- PG 1: Wilma and Biff saw a notice. It was about a go-kart race.  
Wilma had an idea. She told Biff about it.  
ウィルマとビフは掲示を見ました。ゴーカートレースについてでした。  
ウィルマはあることを思いつき、それをビフに教えました。
- PG 2: Biff and Wilma were excited. They told Mum about the race.  
“We need a go-kart,” said Biff. “What about the old one?”  
ビフとウィルマはワクワクしていました。二人はママにレースの事を話しました。  
「ゴーカートが必要なの」ビフが言いました。「あの古いのはどうかしら？」
- PG 3: Mum went to the shed.  
She found the old go-kart, but it was broken and rusty.  
“Oh no!” said Biff.  
ママは納屋に行きました。そして、古いゴーカートを見つけましたが、それは壊れ、錆びついていました。  
「困ったわ！」ビフが言いました。
- PG 4: Biff told Dad about the race. Dad looked at the old go-kart.  
“This one is broken,” he said. “But we can make a new one.”  
ビフはパパにレースの事を話しました。パパは古いゴーカートを見ました。  
「壊れているな」パパが言いました。  
「でも、新しいのを作ればいいよ」
- PG 5: The mums and dads made a new go-kart. Everyone wanted to help.  
Biff and Mum looked at the plans. Wilma helped her dad.  
ママとパパが新しいゴーカートを作ってくれました。みんなもお手伝いをしたりしました。ビフとママは設計図を見ました。ウィルマは自分のパパのお手伝いをしました。
- PG 6: Mum painted the go-kart. Chip helped. He was good at painting.  
“It looks brilliant!” said Biff.  
ママがゴーカートにペンキを塗りました。チップがお手伝いをしました。チップはペンキ塗りが得意でした。  
「カッコイイ！」ビフが言いました。

- PG 7: Everyone looked at the new go-kart. Biff wanted a go, but Mum said she couldn't. The paint was still wet.  
みんなは新しいゴーカートを見ました。ビフが乗りたがりでしたが、ママが駄目だと言いました。ペンキがまだ乾いていなかったのです。
- PG 8: Mum took the children to a park. There was a hill in the park. It was a good place to try the new go-kart.  
ママは子どもたちを公園へ連れて行きました。公園には丘がありました。新しいゴーカートを試すのに絶好の場所でした。
- PG 9: Wilma went first, but everyone had a go. Biff went last. "It's brilliant!" she said.  
ウィルマが最初に乗り、つづいてみんなも乗りました。ビフが最後でした。「すごいわ！」ビフが言いました。
- PG 10: Wilma saw another go-kart. "It's Anneena," she said. "She's got a go-kart too."  
ウィルマが別のゴーカートを見つけました。「アニーナよ」ウィルマが言いました。「彼女もゴーカートを持ってるわ」
- PG 11: Everyone looked at Anneena's go-kart. "It looks fast," said Wilma. "But I bet ours is faster."  
"I bet it's not," said Anneena.  
みんながアニーナのゴーカートを見ました。「速そうね」ウィルマが言いました。「でも、私たちの方が速いと思うわ」  
「私はそうは思わないわ」アニーナが言いました。
- PG 12: Wilma and Anneena had a race. The go-karts raced down the hill. Anneena was in front.  
"Come on!" shouted Biff.  
ウィルマとアニーナがレースをしました。ゴーカートは競い合いながら丘を下って行きました。アニーナが先頭でした。「頑張って！」ビフが叫びました。
- PG 13: Suddenly, a dog ran in front of Anneena. Her go-kart crashed into a bush. Wilma crashed into Anneena.  
突然、犬がアニーナの前に飛び出しました。アニーナのゴーカートは草むらに突っ込みました。ウィルマはアニーナに追突しました。

- PG 14: Everyone looked at the go-karts. Wilma's front wheels were bent. Anneena's go-kart was broken. Everyone was upset.  
みんなはゴーカートを見ました。ウィルマのゴーカートの前輪は曲がっていました。アニーナのゴーカートは壊れていました。みんなはがっかりしました。
- PG 15: Chip looked at the broken go-karts. He had an idea. He told mum what the idea was.  
"What a brilliant idea!" said Mum.  
チップは壊れたゴーカートを見ました。チップには考えがありました。チップはそのアイデアをママに教えました。  
「なんて素晴らしいアイデアでしょう！」ママが言いました。
- PG 16: The mums and dads made a new go-kart. They made one go-kart out of two. They put the front of Anneena's go-kart on the back of Wilma's. ママとパパ達は、新しいゴーカートを作りました。みんなは二台のゴーカートから、一台のゴーカートを作りあげました。アニーナのゴーカートの前の部分をウィルマのゴーカートの後の部分にくっつけたのです。
- PG 17: The children liked the new go-kart. They called it Silver Bullet. "What about the race?" asked Biff. "I bet Silver Bullet will win."  
子どもたちは、新しいゴーカートが気に入りました。みんなは、それを銀の弾丸号と呼びました。  
「レースはどうなるかしら？」ビフが聞きました。  
「銀の弾丸号が勝つって、私、賭けてもいいわ」
- PG 18: It was the day of the race. Everyone was excited. "Look at all the go-karts!" said Biff.  
レースの日になりました。みんなは興奮していました。  
「ゴーカートがたくさん。見て！」とビフが言いました。
- PG 19: Biff wanted to drive, but so did Wilma and Anneena. In the end, Mum tossed a coin and Anneena won.  
ビフが運転したがりましたが、ウィルマとアニーナも同じ気持ちでした。結局、ママがコインを上にはうり投げて、アニーナが勝ちました。
- PG 20: It was time for the race. "One... two... three... go!" called the starter. "Come on, Anneena!" called Biff.

レースの時が来ました。「1...2...3...出発！」と、出発合図係が呼びかけました。

「アニーナ、がんばって！」ビフが叫びました。

- PG 21: The go-karts raced down the hill.  
Everyone shouted and cheered. Anneena went fast.  
Silver Bullet was in front.  
ゴーカートは、丘を競争しながら下って行きました。  
みんな、大声をあげて応援しました。アニーナは猛スピードで走りました。  
銀の弾丸号は先頭にたっていました。
- PG 22: Anneena didn't win. Two go-karts went faster. Silver Bullet came third.  
"Oh no!" said Biff.  
アニーナは勝てませんでした。もっと速く走ったゴーカートが二台あったのです。銀の弾丸号は三番でした。  
「あ～あ！」ビフが言いました。
- PG 23: Anneena was upset.  
"I wanted to win," she said.  
"Don't worry," said Biff. "Silver Bullet's still the best."  
アニーナは気持ちがおさまりません。「私、勝ちたかったのに」アニーナが言いました。  
「気にしないで」ビフが言いました。  
「銀の弾丸号はやっぱり一番よ」
- PG 24: Silver Bullet did win a prize. It was the best-looking go-kart.  
"Hooray!" everyone cheered. "We said it was the best!"  
銀の弾丸号は、賞をもらいました。  
それは、一番カッコいいゴーカート賞でした。  
「やった！」とみんなが喜びました。  
「これが最高だって言ったじゃない！」



## The Shiny Key 「ピカピカの鍵」

- PG 1: Chip was watching television. The magic key was on the arm of the chair. Nadim came to play.  
チップはテレビを見ていました。マジックキーは椅子の肘掛に置いてありました。ナディムが遊びに来ました。
- PG 2: Chip didn't want to play. He wanted to watch television. He wanted to watch a program about magpies.  
チップは遊びたくありませんでした。テレビを見たかったのです。チップは、カササギの番組を見たかったのです。
- PG 3: Nadim wanted a magic adventure. Chip looked for the magic key, but he couldn't find it. Nadim helped Chip to look.  
ナディムは魔法の冒険をしたいと思っていました。チップはマジックキーを探しましたが、見つけれませんでした。ナディムはチップが探すのを手伝いました。
- PG 4: Chip looked at the armchair. "I put the key on the arm of the chair," he said. Suddenly, he had an idea. Chip looked at the armchair.  
「I put the key on the arm of the chair,」 he said. Suddenly, he had an idea. チップは肘掛け椅子を見ました。  
「ぼく、鍵を椅子の肘掛に置いたのに」とチップが言いました。その時、突然、チップはあることを思いつきました。
- PG 5: The children looked in the armchair. They found lots of things. Chip found Mum's missing ear-ring. "Mum will be pleased," he said. The children looked in the armchair. They found lots of things. Chip found Mum's missing ear-ring. "Mum will be pleased," he said. 子どもたちは肘掛け椅子の中を見ました。二人はいろいろな物を見つけました。チップはママがなくなったイヤリングを見つけました。「ママが喜ぶぞ」とチップは言いました。
- PG 6: Chip found the key. It was stuck to a toffee. "Yuk!" said Chip. "It's all sticky." Chip found the key. It was stuck to a toffee. "Yuk!" said Chip. "It's all sticky." チップは鍵を見つけました。鍵はキャラメルにくっついています。「うわっ!」とチップが言いました。「べとべとだ」
- PG 7: Chip told Mum about the armchair. He gave Mum the missing ear-ring. Nadim cleaned the key. He made it very shiny. Chip told Mum about the armchair. He gave Mum the missing ear-ring. Nadim cleaned the key. He made it very shiny. チップはママに肘掛け椅子のことを話しました。チップはママになくな

っていたイヤリングを渡しました。ナディムは鍵をきれいにしました。そして、鍵をピカピカにしました。

- PG 8: The children went into Biff's room. Biff looked at the key.  
"Oh no! It looks very shiny," she said.  
"I hope the magic still works."  
子どもたちはビフの部屋へ行きました。ビフは鍵を見ました。  
「わあ！ピカピカになってる」とビフが言いました。  
「まだ魔法が働くといいんだけど」
- PG 9: Suddenly, the key began to glow. It looked very bright.  
The magic took the children into a new adventure.  
突然、鍵が光り始めました。それはとても明るく光っていました。  
魔法の力で子どもたちは新しい冒険へと導かれました。
- PG 10: The children were in a wood. Chip didn't like it.  
The wood was dark and gloomy.  
"Come on!" he said.  
子どもたちは森の中にいました。チップは気に入りませんでした。  
その森は暗く陰気でした。  
「行こうよ！」とチップが言いました。
- PG 11: Suddenly, Biff saw something shiny. She picked it up.  
"What a beautiful ring!" she said. "Somebody must have dropped it."  
その時ビフは何か光る物を見つけました。ビフはそれを拾い上げました。  
「何てきれいな指輪！」ビフが言いました。「きっと誰かが落としたのよ」
- PG 12: The children saw some soldiers. The soldiers saw the ring.  
They grabbed the children.  
"That ring is stolen," they said.  
子どもたちは兵士たちに出会いました。兵士たちは指輪を見ました。兵士は子どもたちを捕まえました。  
「その指輪は盗まれたものだ」兵士たちは言いました。
- PG 13: The soldiers took the children to the prince.  
"We've found the thieves," they said. "Here's your ring."  
兵士は子どもたちを王子様の所へ連れて行きました。  
「盗人たちを見つけました」兵士が言いました。「どうぞ、あなたさまの指輪です」
- PG 14: "Here are the thieves," said the prince.

“What else have they stolen?”  
“My watch was stolen,” said a man.  
“My ear-ring was stolen,” said a lady.  
「ここにいるのは、盗人たちだ」王子様が言いました。  
「他に何が盗まれたんだ？」  
「わしの腕時計が盗まれた」と男の人が言いました。  
「私のイヤリングも盗まれたわ」と女の人が言いました。

- PG 15: A soldier took the magic key.  
“Look at this shiny key,” he said.  
“These children have stolen things. They must have locked them away.”  
一人の兵士がマジックキーを取りあげました。  
「このピカピカの鍵を見てください」兵士は言いました。  
「この子どもたちはいろいろな物を盗んだのです。盗んだ物をどこかに隠しているに違いありません」
- PG 16: The soldiers took the children to a prison.  
“Where are the stolen things?” they asked.  
“Tell us, or we’ll lock you up.”  
兵士たちは子どもたちを牢屋へ連れて行きました。  
「盗んだ物はどこだ？」兵士たちは聞きました。  
「答えろ、さもないとお前たちを閉じ込めるぞ」
- PG 17: Suddenly, a magpie flew down. It took the magic key.  
“Stop that magpie!” called Biff. “It’s stolen the key!”  
突然カササギが急降下してきました。そしてマジックキーをかすめ取ってしまいました。  
「カササギを止めて！」ビフが叫びました。「鍵を盗んだわ！」
- PG 18: The magpie flew to the woods.  
“The magpie is the thief,” said Chip. The children ran after the magpie.  
Everyone ran after the children.  
カササギが森へ飛んで行きました。  
「あのカササギが盗人だ」チップが言いました。子どもたちは、カササギの後を追いかけてきました。みんなも子どもたちの後を追いかけてきました。
- PG 19: The magpie flew to a tree.  
“Look in its nest,” said Chip. Nadim climbed the tree.  
“Be careful,” called Biff.  
カササギは1本の木に飛んで行きました。  
「その巣の中を見て」チップが言いました。ナディムが木に登りました。

「気を付けて」とビフが叫びました。

- PG 20: Nadim looked in the magpie's nest. It was full of shiny things.  
Nadim gasped.  
"What beautiful things!" he said.  
ナディムがカササギの巣の中を見ました。ピカピカした物でいっぱいでした。ナディムは息を飲みました。  
「何てきれいな物ばかりなんだろう！」ナディムが言いました。
- PG 21: "You see!" said Anneena, crossly.  
"We aren't thieves. The magpie took your things."  
"Sorry!" said the soldier.  
「ほらね！」と、アニーナが腹立たしげに言いました。「私たちは盗人なんかじゃないわ。カササギが、あなたたちの物を取ったのよ」  
「ごめんよ！」と兵士が言いました。
- PG 22: Everyone was pleased.  
"Here's my missing ear-ring," said a lady.  
"Here's my watch," said a man.  
みんなが喜びました。  
「なくなったイヤリングだわ」女の人と言いました。  
「わしの腕時計だ」男の人と言いました。
- PG 23: The prince gave the children a medal.  
"The magpie was the thief," he said.  
"Sorry, we thought it was you."  
The magic key began to glow.  
王子様は子どもたちに勲章を与えました。  
「あのカササギが盗人だったのだ」王子様が言いました。  
「すまなかった。私たちは君たちだと思った」  
マジック・キーが光り始めました。
- PG 24: "Magpies like shiny things," said Biff.  
"So it was a good job Nadim made the magic key shiny, after all"  
「カササギはピカピカした物が好きなのね」ビフが言いました。  
「何はともあれ、ナディムがマジックキーをピカピカにしてくれていて、よかったわね」

## ***Oxford Reading Tree*** Level 6 More Stories B

- ① Paris Adventure 「パリの冒険」
- ② The Stolen Crown Part 1 「盗まれた王冠 パート 1」
- ③ The Stolen Crown Part 2 「盗まれた王冠 パート 2」
- ④ Ship in Trouble 「船の大ピンチ」
- ⑤ Homework! 「宿題！」
- ⑥ Olympic Adventure 「オリンピックの冒険」

## Paris Adventure 「パリの冒険」

- PG 1: The Children were doing a project on France. Mrs may showed them some pictures of Paris.  
子どもたちはフランスについて調べていました。メイ先生がパリの写真を見せてくれました。
- PG 2: Mrs May showed them a picture of the Eiffel Tower.  
“It looks very tall,” said biff.  
メイ先生はエッフェル塔の写真を見せてくれました。  
「この塔、すごく高そう」とビフが言いました。
- PG 3: After school Mum came to meet Biff and Chip. Biff had a picture of Paris.  
“We are doing a project on France,” she said.  
放課後、ママがビフとチップを迎えに来ました。ビフはパリの写真を持っていました。  
「今フランスについて調べているの」と言いました。
- PG 4: Later Nadim and Anneena came to play with Biff and Chip. Anneena had a model of the Eiffel Tower.  
後からナディムとアニーナが、ビフとチップの所へ遊びに来ました。  
アニーナはエッフェル塔のプラモデルを持って来ました。
- PG 5: “I know,” said Chip. “Let’s paint the French flag.”  
He got a big sheet of paper and they began to paint it.  
「そうだ！」とチップが言いました。「フランスの国旗を描いてみようよ」  
チップが大きな紙を持って来て、皆で描き始めました。
- PG 6: Suddenly the magic key began to glow. It was time for an adventure.  
“Oh no!” said Biff. “I wanted to finish painting the flag.”  
いきなりマジックキーが光り始めました。冒険の始まりです。  
「わあ、やめて！」とビフ。  
「国旗を完成させたかったのに」
- PG 7: The magic took them back in time. It took them to a busy town.  
“There are no cars,” said Chip. “This must be a long time ago.”  
魔法の力で子どもたちは時代をさかのぼりました。にぎやかな街に連れて行かれました。  
「車が一台も通っていない」とチップが言いました。  
「これは、かなり昔の時代だぞ」

- PG 8: "I know where we are," said Biff.  
"We are in Paris. Look at all the flags."  
Anneena was excited. "We can go and see the Eiffel Tower," she said.  
「どこにいるか分かった」とビフが言いました。  
「パリにいるのよ。ほら見て、あちこちの旗を」  
アニーナは興奮気味でした。  
「エッフェル塔を観に行けるわね」と言いました。
- PG 9: The children looked for the Eiffel Tower but they couldn't find it.  
"Are you sure this is Paris?" asked Chip.  
子どもたちはエッフェル塔を探しましたが、見つかりませんでした。  
「ここがパリって、まちがいないの？」とチップが聞きました。
- PG 10: Nadim asked a policeman. "Do you know where the Eiffel Tower is?" he asked.  
"The Eiffel Tower!" said the policeman. "There is no such thing."  
ナディムはおまわりさんに聞いてみました。  
「エッフェル塔の場所をご存知ですか？」  
「エッフェル塔！」とおまわりさんが言いました。  
「そんなものはないぞ」
- PG 11: Anneena asked a lady. "Do you know where the Eiffel Tower is?" she asked.  
"The Eiffel Tower!" said the lady. "There is no such thing."  
アニーナは女の人に聞いてみました。  
「エッフェル塔がどこにあるかご存知ですか？」  
「エッフェル塔！」と女の人が言いました。  
「そんなものないわよ」
- PG 12: "I know why we can't find the Eiffel Tower," said Biff. "It hasn't been invented."  
Just then they saw a man. He was pulling a cart.  
「エッフェル塔を見つけられない理由がわかった」とビフが言いました。  
「まだ造られていないんだよ」。  
その時、男の人の姿が見えました。その人はカートを引きっていました。
- PG 13: "Will you help?" asked the man. "I can't get the cart up this step."  
The Children helped the man pull the cart into a hall.  
「手伝ってくれないかね？」と男の人が言いました。  
「カートをこの段の上に持ち上げられないのでね」  
子どもたちはその人を手伝って、カートをホールの中まで引っぱって行きました。

- PG 14: The man pulled a sheet off the cart.  
“This is my model,” he said.  
“Why is it?” asked Nadim.  
その人はカートにかかっていた布を取りました。  
「これは私の作った模型だよ」と言いました。  
「何ですか？」とナディムが尋ねました。
- PG 15: “It is a torch,” said the man. “It will be taller than all the houses in Paris. People will see it for miles. Here is a picture. It will look like this.”  
「たいまつだよ」と男の人が答えました。  
「パリ中のどんな家々よりも高くなるだろう。何マイルも離れたところからでも見えるぞ。これが完成図だ。こんな風になる予定だよ」
- PG 16: The children looked round the hall. There were lots of models.  
“It’s a competition,” said Chip. “I know which one will win... the Eiffel Tower!”  
子どもたちはホールを見回しました。模型であふれていました。  
「これはコンクールなんだ」とチップが言いました。  
「どれが優勝するか知ってるぞ・・・エッフェル塔だよ！」
- PG 17: “But I can’t see the Eiffel Tower,” said Nadim. Some people began to look at the models to see which was the best  
「でもエッフェル塔が見当たらないな」と。  
何人かの人たちが模型を見回って、どの作品が最高かチェックをし始めました。
- PG 18: “Everyone will see my torch for miles,” said the man. “At night the top will light up like this!” He plugged in the torch.  
「何マイルも離れたところからでも、私のたいまつは皆に見えますぞ」  
男の人は言いました。  
「夜になればてっぺんはこんな風に明るくなります」  
彼はコンセントを差し込みました。
- PG 19: There was a loud bang. The top of the torch blew off. Then it fell over with a crash.  
大きな音がしました。たいまつのでっぺんが吹き飛びました。そしてがちゃんと音を立てて倒れました。



- PG 20: “Ah!” said the man. “It needs a little work.”  
Anneena had an idea. She began to lift the broken torch.  
“Help me, everyone,” she said.  
「あ～！」と男の人。  
「これは少し、直しが必要になってしまった」  
アニーナにある考えが浮かびました。彼女は壊れたたいまつを起こそう  
として言いました。  
「みんな、手伝って」
- PG 21: The children turned the torch upside down.  
“What does it look like to you?” asked Anneena.  
子どもたちはたいまつを上下逆さに立てました。  
「どんな風に見える？」とアニーナが聞きました。
- PG 22: “It looks like the Eiffel Tower,” said Biff. She spoke to the man.  
“Excuse me,” she said. “Why not make the torch into a tower?”  
「エッフェル塔に見えるけど」とビフが言いました。  
ビフは男の人に話しかけました。  
「どうでしょう」と言いました。  
「たいまつを塔にしてみたら？」
- PG 23: “Excuse me,” said Anneena. But is your name Eiffel?”  
“Brilliant!” said the man. “Brilliant!” Just then the magic key began to  
glow.  
「もしかして」とアニーナが言いました。  
「あなたのお名前はエッフェルさん？」  
「素晴らしい！」と男の人が言いました。  
「こりゃあ素晴らしい！」  
ちょうどその時、マジックキーが光り始めました。
- PG 24: “I wonder if that was Monsieur Eiffel,” said Biff.  
“And if that was how the Eiffel Tower was invented!” said Nadim.  
「さっきの人がエッフェルさんだったのかな」とビフが言いました。  
「それで、エッフェル塔が造られたいきさつがさっきの出来事ってわけか  
も！」とナディムが言いました。

# The Stolen Crown *Part 1* 「盗まれた王冠 パート1」

- PG 1: The family went to see an old castle. Most of it had fallen down a long time ago.  
"It's just a ruin," said Chip.  
家族そろって古いお城を見に行きました。お城の大部分は、ずいぶん以前に崩れ落ちてしまっています。  
「なあんだ、ただの廃墟じゃないか」とチップが言いました。
- PG 2: Kipper Wanted to climb on a wall, but Dad said "no".  
We must look after old ruins," he said.  
キッパーは壁を登りたがりましたが、パパが「ダメ！」と言いました。  
「古い廃墟は大切に守らなくてはね」と言いました。
- PG 3: "Once upon a time, it was a big castle," said Biff. "I wonder what it was like to live here."  
「昔むかし、ここは大きなお城だったんだよね」とビフが言いました。「こんなお城に住むのって、どんな気分かなあ」
- PG 4: Mum found a good spot for a picnic. Floppy saw a rabbit hole. He began to dig in the ground.  
ママはピクニックにうってつけの場所を見つけました。フロッピーはうさぎの穴を見つけました。地面を掘り始めました。
- PG 5: Chip saw something shining in the dirt, so he picked it up.  
"It's a glass bead," he said.  
"I wonder who lost it?" said Biff.  
チップは土の中に光るものを見つけ、拾い上げました。  
「これはガラス製のビーズだね」と言いました。  
「これをなくしたのは、どんな人なんだろう？」とビフが言いました。
- PG 6: Chip looked at the bead through his magnifying glass. Then he put it in his pocket.  
"I Don't think it's valuable," he said.  
チップは虫眼鏡でビーズを覗いてみました。それからビーズをポケットにしまいました。  
「価値あるものには見えないけどね」とチップは言いました。

- PG 7: Later, Chip came into Biff's room. He had a book about castles.  
Suddenly, the magic key began to glow.  
後から、チップがビフの部屋にやって来ました。お城について書かれた本を持っていました。  
突然マジックキーが光り始めました。
- PG 8: The Magic took Biff and Chip back in time. It took them to the castle.  
Some people were waiting outside a big door.  
魔法の力でビフとチップは時代をさかのぼりました。魔法の力でお城に連れてこられました。  
何人かの人、大きな扉の前で待っていました。
- PG 9: An important man came up.  
"I am Lord Kent," said the man. "Where is your present for the prince?"  
立派な男の人が近づいて来ました。  
「私はケント卿だ」とその人は言いました。  
「王子様への贈り物はどこにある？」
- PG 10: Biff and Chip didn't have a present.  
"Think of something, Chip," said Biff.  
"Er...we have a magic glass," said Chip. "It makes small things look big."  
ビフとチップは贈り物を持っていませんでした。  
「何か考えてよ、チップ」とビフが言いました。  
「えーと、私たちは魔法の鏡を持って参りました」とチップが言いました。  
「これは小さな物を大きく見せる事が出来ます」
- PG 11: "That is a good present," said Lord Kent. "The prince will like it. Put it on this cushion. Then wait outside in the line."  
「これは良い贈り物である」とケント卿が言いました。「王子様はお気に召されるだろう。このクッションの上に載せなさい。そして列に並んで待っていなさい」
- PG 12: At last, Biff and Chip went into a hall.  
"That was quick thinking, Chip," said Biff. "I wonder who this prince is."  
"He must be important," said Chip.  
ついに、ビフとチップは大広間に通されました。  
「さっきのひらめき、よかったよ、チップ」とビフが言いました。  
「王子様って何者なんだろう？」  
「すごく偉い人に違いないよ」とチップが言いました。

- PG 13: The prince was sitting on a throne. Chip gave him the magnifying glass.  
“I love it!” said the prince.  
王子様は玉座に座っていました。  
チップは王子様に虫眼鏡を差し上げました。  
「気に入ったぞ！」と王子様が言いました。
- PG 14: The prince jumped off the throne and looked through the magnifying glass.  
“Tomorrow is an important day,” he said. “Tomorrow I will be the king.”  
王子様は玉座から飛び降り、虫眼鏡越しに覗いてみました。  
「明日は大切な一日になる」と言いました。  
「明日、僕は王様になるのだから」
- PG 15: “You can call me Henry, but tomorrow I will be King Henry,” he said.  
“Come with me.” He ran out of the hall.  
「僕のことを、ヘンリーって呼んでも良いが、明日からはヘンリー王だからな」と言いました。  
「一緒に来て」彼は走って大広間を出て行きました。
- PG 16: Henry ran up some stairs.  
“Come and see my crown,” he said. “I went to look at it through this magic glass.”  
ヘンリーは階段をいくつか駆け上がりました。  
「僕の王冠を見に行こう」と言いました。  
「この魔法の鏡を使って、王冠を見てみたいんだ」
- PG 17: Two guards looked at Biff and Chip.  
“We are here to see that the crown is not stolen,” said a soldier. “Hold your arms up. We must search you.”  
二人の守衛がビフとチップに気づきました。  
「我々は王冠が盗まれないようにここで見張っているのだ」と兵士の一人が言いました。  
「両手を上げなさい。君たちを調べるから」
- PG 18: Henry took Biff and Chip into a small room in a tower. Biff and Chip gasped when they saw the crown.  
“It looks very valuable,” said Chip.  
ヘンリーはビフとチップを塔の中の小さな部屋に連れて行きました。王冠を見たとき、ビフとチップはびっくり仰天しました。  
「なんだかすごく、価値がありそう」とチップが言いました。

- PG 19: “If it was stolen, I could not become king,” said Henry. “But it is safe in this tower. Nobody could take it from here.”  
「もしこれが盗まれてもしたら、僕は王様になれないのだ」とヘンリーが言いました。  
「でもこの塔の中に置いてあれば安心さ。誰もここからは持ち去ることは出来ないからね」
- PG 20: Henry took Biff and Chip to see his horse.  
“I shall ride him when I become king tomorrow,” he said.  
ヘンリーはビフとチップに馬を見せに連れて行きました。  
「明日王様になる時には、この馬に乗るんだよ」と言いました。
- PG 21: Suddenly, they heard shouting. Lord Kent ran up to Henry.  
“Come quickly!” he shouted. “Your crown has been stolen.”  
突然、3人は叫び声を聞きました。ケント卿がヘンリーのところへ走ってきました。  
「急いでいらしてください！」と叫びました。  
「あなたの王冠が盗られました」
- PG 22: Henry ran back up the stairs to the crown room. The guards were still outside the door.  
“The crown is missing,” said a guard.  
ヘンリーは階段を駆け上り、王冠の置いてある部屋まで戻りました。守衛たちはまだ扉の外にいました。  
「王冠がなくなりました」と守衛が言いました。
- PG 23: “How can it be missing?” asked Henry.  
“We don’t know,” said a guard. “Nobody has been here, except you.”  
“I know who stole it,” said Lord Kent.  
「なくなるなんて、どうしてなのだ」とヘンリーが聞きました。  
「我々にも分かりません」と守衛が言いました。  
「あなた方以外には誰も部屋に入っておりません」  
「誰が盗んだか分かったぞ」とケント卿が言いました。
- PG 24: “These children have stolen it,” Lord Kent went on. “They used magic to do it. Throw them in prison at once.”  
“Oh!” said Biff. “Now we’re in trouble!”  
「ここにいる子どもたちが盗んだのだ」ケント卿が話を続けました。  
「魔法を使って盗んだのだ。直ちに牢獄へ放り込め」  
「ああ！」とビフが言いました。  
「困った事になっちゃった」

Now read Part 2...  
この先はパート2を読んで  
ください

## The Stolen Crown *Part 2* 「盗まれた王冠 パート2」

- PG 1: **Have you read part 1?**  
パート1はもう読みましたか？
- “These children stole the crown,” said Lord Kent. “Throw them in prison.”  
“Stop!” said Henry. “I don’t think they stole my crown.”  
「ここにいる子どもたちが王冠を盗んだのだ」ケント卿が言いました。  
「やつらを牢獄に放り込め」  
「やめろ！」とヘンリーが言いました。  
「二人が盗んだとはとても思えない」
- PG 2: Henry spoke to the guards. “Who has been in this room today?” he asked.  
“You and Lord Kent,” said a guard.  
ヘンリーは守衛たちに話しかけました。  
「今日この部屋に入ったのは誰だ？」  
王子様が尋ねました。  
「あなた方とケント卿です」と守衛が言いました。
- PG 3: “No body could have taken it out of this room,” said the other guard.  
“We search everyone.”  
“The children took it,” said Lord Kent.  
「誰もこの部屋から持ち出せたはずがないのです」  
もう一人の守衛が言いました。「私たちは一人一人をきちんと調べています」  
「ならばやはり、子どもたちが取ったのだ」とケント卿が言いました。
- PG 4: “We didn’t take it,” said Biff, “and nobody else could get in from the outside.”  
「私たちは取っていないし」とビフが言いました。  
「それに他の誰も外からは侵入できないはず」
- PG 5: Chip saw something on the floor. It was a broken arrow. He asked Henry to lend him the magnifying glass.  
チップは床の上の何かを見つけました。それは折れた矢でした。チップはヘンリーに虫眼鏡を貸してくれるよう頼みました。

- PG 6: “Someone tied string to the window,” said Chip. “I think I know how the crown was stolen.”  
「誰かが窓に紐を結んだんだ」とチップは言いました。  
「王冠がどうやって盗まれたか分かった気がする」
- PG 7: “Someone was in this room. Then someone outside the castle shot an arrow through the window. It had string tied to it.”  
「誰かがこの部屋の中にいたんだ。それから外にいる他の誰かが窓に向かって矢を放った。その矢には紐が結ばれていた」
- PG 8: “The person in the room put the string through the crown. Then they tied the string round this bar in the window.”  
「部屋の中の人がある紐に王冠を通した。それから紐の端を窓の格子にしぼったんだ」
- PG 9: “The crown slid down the string. Then the person in the room untied the string and left. It was easy.”  
「王冠はその紐を伝って下まで降りた。それから部屋にいた人が紐をはずして部屋を出たってわけ。簡単な事だったんだよ」
- PG 10: “I know who stole the crown,” said Henry. “You, Lord Kent. You want to stop me being the king.”  
Suddenly, Lord Kent ran off.  
「王冠を盗んだ者が分かったぞ」とヘンリーが言いました。  
「ケント卿、お前だ。お前は僕が王になるのを阻止したかったのだろう」  
いきなり、ケント卿が逃げ出しました。
- PG 11: “Ha!” he shouted. “You will not be king. I will! You have lost the crown.”  
“Catch him!” shouted Henry. “Don’t let him get away.”  
「ふん！」と彼は叫びました。  
「お前なんかが王になれるものか。私になるのだ！お前は王冠をなくしてしまったのだからな」  
「やつを捕まえろ！」とヘンリーが叫びました。  
「取り逃がすな」
- PG 12: Biff and Chip grabbed Lord Kent’s cloak and pulled him over.  
“Throw him in prison!” shouted Henry.  
ビフとチップがケント卿のマントをつかんで、彼を引き寄せました。  
「やつを牢獄に放り込め！」ヘンリーが叫びました。



- PG 13: Henry ran out of the castle.  
“Come on!” he called to Biff and Chip. “We have to get my crown back.”  
ヘンリーはお城から走り出しました。  
「来て！」とビフとチップを呼びました。  
「王冠を何としても取り戻さなきゃ」
- PG 14: Suddenly, Henry stopped running. Two men were searching for something in the grass.  
いきなり、ヘンリーは走るのを止めました。二人の男が草むらの中で何かを探していました。
- PG 15: “Keep down,” hissed Henry. “Don’t let them see us.”  
“What are they looking for?” asked Biff.  
「身をかがめていて」とヘンリーがささやきました。  
「彼らに見られないようにして」  
「あの人たち、何かを探しているんだろう？」とビフが尋ねました。
- PG 16: One man took the crown out of a bag.  
“This is bad news,” he said. “The biggest jewel in the crown is missing.”  
男が袋の中から王冠を取り出しました。  
「こりゃあ悪い知らせだ」とその男が言いました。  
「王冠の中で一番大きな宝石が無くなっちゃまっている」
- PG 17: “We must find it,” said the other man. “Lord Kent will think we have stolen it.” “It must be here,” said the first man. “I hope it didn’t fall in the moat.”  
「なんとか探さなきゃならん」ともう一人の男が言いました。  
「俺たちが盗んだとケント卿に思われちゃう」  
「この辺にあるはずなんだ」と最初の男が言いました。  
「お堀の中に落ちたんでなければいいが」
- PG 18: Chip had an idea. In his pocket was a glass bead.  
“Is this the jewel?” he asked.  
“No,” said Henry. “The jewel is much bigger.”  
チップに考えが浮かびました。ポケットにはガラスのビーズがありました。  
「これがその宝石ではありませんか？」チップが尋ねました。  
「ちがうよ」とヘンリーが答えました。  
「その宝石はもっともっと大きいんだ」

- PG 19: "Give Biff the magnifying glass, Henry," said Chip, "and stay where you are."  
Biff and Chip went up to the men.  
「ビフに虫眼鏡を渡してください、ヘンリー」とチップが言いました。「そしてここでじっとしていて下さい」  
ビフとチップは男たちの所に行きました。
- PG 20: Biff held the magnifying glass over the bead.  
"Are you looking for this big jewel?" she said. "We have just found it."  
ビフは虫眼鏡をビーズの上にかざしました。  
「もしかしてこの大きな宝石をお探しでは？」と言いました。  
「たった今、みつけたのですが」
- PG 21: Suddenly, Biff dropped the bead. The men bent down to get it. She grabbed the crown and Chip pushed the men into the moat. Splash!  
いきなり、ビフはビーズを落としました。男の人たちは身をかがめて取ろうとしました。ビフは王冠をつかみ取り、チップが男たちをお堀に突き落としました。バシヤン！
- PG 22: Biff threw the crown to Henry.  
"Don't drop it!" yelled Chip. "Now run! You can be king after all!"  
ビフはヘンリーに向かって王冠を投げました。  
「落とさないで下さいよ！」とチップが叫びました。  
「さあ走って！これでついに王様になれますからね！」
- PG 23: "I'm glad I'm not a king," said Chip. "You just can't trust anyone."  
"But you can trust the magic key," said Biff. "It's glowing."  
「僕は王様なんかじゃなくて良かったよ」とチップが言いました。  
「誰の事も信用できなくなっちゃうもの」  
「マジックキーだけは信じていいんじゃない」とビフが言いました。  
「光ってるよ」
- PG 24: "Henry was just a boy," said Chip. "I wonder if he was king for a long time?"  
"Who knows?" said Biff. "I wonder if he found that missing jewel?"  
「ヘンリーはまだ少年だったよね」とチップは言いました。  
「彼は長いこと王様でいられたのだろうか？」  
「さあどうかな？」とビフが言いました。  
「それよりなくなった宝石は見つけられたのかなあ？」

## Ship in Trouble 「船の大ピンチ」

- PG 1: Wilma's mum took the children to an adventure playground. It was a new playground and it looked exciting.  
ウィルマのママが子どもたちをアドベンチャーパークに連れて行きました。そこは新しく出来た、見ているだけでワクワクするような場所です。
- PG 2: They all wanted a go on the zip wire. Chip went first. It was hard to get on it, so Wilma's mum helped him.  
みんなはジップワイヤー(滑車じかけのブランコでロープをすべりおける乗り物)に乗りたがりました。チップが一番に挑戦しました。乗るのが難しかったけれど、ウィルマのママが手伝ってくれました。
- PG 3: The zip wire went fast.  
"Yee ha! This is scary," called Chip. "I love it."  
ジップワイヤーはとても速く進みました。  
「ひゃ〜！こりゃあこわい」とチップが叫びました。  
「気に入ったぞ」
- PG 4: Wilma was next, but she felt scared. Then the wind blew and it began to rain. "It's too windy and it's raining," said Wilma. "I can't go."  
次はウィルマでしたが、恐がっていました。そこへ風が吹き、雨も降り出しました。  
「風が強すぎるし、雨も降ってきちゃったし」とウィルマが言いました。  
「私は行けない」
- PG 5: "It's a bad storm," said Mum. "Let's go home. We can come back another day."  
So they all ran back to the car.  
「すごい嵐だわ」とママが言いました。  
「家に帰りましょう。また別の日に来ればいから」  
そこで皆、走って車へと戻りました。
- PG 6: Wilf and Wilma went back to Biff and Chip's house. They went to Biff's room to play.  
ウィルフとウィルマがビフとチップの家まで戻って来ました。ビフの部屋に遊びに行きました。

- PG 7: “I hope we go back to the adventure playground,” said Wilf. “I want a go on the zip wire.”  
Then the magic key began to glow.  
「アドベンチャーパークに戻れたらなあ」とウィルフが言いました。  
「ジップワイヤーに乗ってみたいよ」  
するとマジックキーが光り始めました。
- PG 8: The magic took the children back in time. It took them to a cliff near the sea. A bad storm was blowing.  
魔法の力で、子どもたちは時代をさかのぼりました。海のそばの崖まで連れてこられたのです。嵐が吹き荒れていました。
- PG 9: Suddenly, there was a bang. A bright light lit up the sky. Then a girl ran down the path. Behind her was a man on crutches.  
突然、バンという大きな音がしました。明るい光が空を照らし出しました。そして一人の女の子が道を走って来ました。その子の後ろには松葉杖をついた男の人がいました。
- PG 10: “Will you help us?” asked the girl. “The storm has blown a ship on to the rocks. The light in the sky was a call for help.”  
「手伝ってくれませんか」と女の子が尋ねました。  
「嵐のせいで船が岩に乗り上げてしまったんです。さっきの空の光は助けを呼ぶためだったんです」
- PG 11: “We can’t help,” said Wilma. “You need to call the lifeboat.”  
“We can’t,” said the girl. “The lifeboat has gone to help another ship.”  
「私たちでは手に負えません」とウィルマが言いました。  
「救助船を呼ぶべきだと思いますけど」  
「無理なんです」と女の子が言いました。  
「救助船は他の船を助けに行ってしまったので」
- PG 12: “My name is Jane,” said the girl.  
“I’m Jane’s father,” said the man. “I should be out with the lifeboat, but I’ve hurt my back.”  
「私はジェーンと言います」と女の子が言いました。  
「私はジェーンの父です」と男の人が言いました。  
「私も救助船に乗るはずだったが、背中を痛めてしまってね」

- PG 13: “The ship is stuck on the rocks,” said Jane. “People are in danger. If you help us, we can rescue them.”  
「あの船は岩に挟まれてしまって」とジェーンが言いました。  
「中の人たちが危険なの。もしあなたたちが手伝ってくれたら、きっと助け出せるわ」
- PG 14: They ran to the lifeboat station. Jane loaded things on to a donkey. She gave the children long poles to carry.  
皆は救命本部に走って行きました。  
ジェーンはいろいろな物をロバの背中に載せました。そして子どもたちには長い棒を渡して運んでもらいました。
- PG 15: They went back along the path. The waves were crashing over the ship.  
“This is a bad storm,” said Wilf.  
皆は今来た道に戻りました。波が船に叩きつけていました。  
「これはひどい嵐だな」とウィルフが言いました。
- PG 16: Jane told the children to lash two poles together.  
“We must make sure they don’t fall over,” she said.  
ジェーンは二本の棒をしばるようと子どもたちに言いました。  
「絶対に倒れないようにしなくちゃだめよ」と言いました。
- PG 17: Jane’s father had a special cannon. He shot a line out over the water. The line flew through the air and landed on the ship.  
ジェーンのお父さんは特製の大砲を持っていました。彼は釣り糸を海に向って打ち上げました。釣り糸は空を舞って船の上に着地しました。
- PG 18: Jane tied a rope to the line. The people on the ship pulled it across. Then they tied the rope to the ship.  
ジェーンは釣り糸をロープと結び合わせました。船の人たちがそれを引き寄せました。それからロープを船に結びつけました。
- PG 19: Jane’s father put a pulley on the rope. The pulley had a ring tied to it. “I get it,” said Wilf. “The people sit in that funny-looking ring.”  
ジェーンのお父さんがロープに滑車を取り付けました。滑車には浮き輪が結びつけられていました。  
「わかった」とウィルフが言いました。  
「あの人たちがあの変な形した浮き輪に座るってわけだね」

- PG 20: “Now we pull them in,” said Jane.  
“And I thought the zip wire was scary,” said Wilma.  
「さあ、あの人たちを引っ張るわよ」とジェーンが言いました。  
「ジップワイヤーは恐いって思っていたのよ」とウィルマが言いました。
- PG 21: It was hard pulling the people across on the pulley. The rope dipped in the middle and it swung in the wind.  
滑車の力で船の人たちを引っ張るのはとても大変でした。ロープは真ん中あたりで海に浸かってしまい、風でユラユラ揺れました。
- PG 22: The last to come was the captain.  
“I’ve lost my ship, but you’ve saved our lies,” he said. “Thank you.”  
最後にやって来たのは船長でした。「私は船を失ってしまった。しかし君たちが我々の命を救ってくれた」と言いました。  
「ありがとう」
- PG 23: Jane looked at the children.  
“Thank you for helping us,” she said. Then the key began to glow.  
ジェーンは子どもたちを見ました。  
「手伝ってくれてありがとう」と言いました。その時、マジックキーが光り始めました。
- PG 24: “I’m glad I wasn’t on that ship,” said Wilma. “The zip wire at the playground won’t seem scary, now.”  
“Not even in a storm?” asked Wilf.  
「船に乗っていなくて良かったわ」とウィルマが言いました。  
「アドベンチャーパークのワイヤーなんて、今となってはちっとも恐く感じないでしょうね」  
「嵐の時でも？」とウィルフが聞きました。

# Homework! 「宿題！」

- PG 1: Everyone was excited. It was half-term.  
“For homework,” said Mrs May. “I’d like you to keep an autumn diary.”  
“Oh no!” said Biff. “Homework!”  
皆は興奮状態でした。秋休みだったのです。  
「宿題は」とメイ先生が言いました。「秋日記を書いて来ることです」  
「あ～あ！」とビフが言いました。「宿題なんて！」
- PG 2: Chip phoned Gran.  
“We can’t stay with you all week,” he said. “We’ve got to keep a nature diary. It’s homework.”  
チップはおばあちゃんに電話しました。  
「一週間も泊まれそうにないや」と言いました。  
「自然日記を書くことになってしまつて。宿題なんだよ」
- PG 3: “Don’t worry,” Gran replied. “We can get the homework done and have some fun.”  
「心配しなさんな」とおばあちゃんが答えました。  
「宿題も出来るし、楽しむ事も出来るよ」
- PG 4: The next day, Dad took Biff and Chip to Gran’s. They picked up Nadim on the way. He was going too.  
次の日、パパはビフとチップをおばあちゃんのところへ連れて行きました。途中でナディムを乗せました。彼も一緒に行くのです。
- PG 5: “It will be fun at Gran’s,” said Biff.  
“I know,” said Nadim. “But when will we get time to write our nature diary?”  
「おばあちゃんの所はきっと楽しいよ」とビフが言いました。  
「わかってる」とナディム。  
「でも自然日記を書く時間はいつ作ればいいのか？」
- PG 6: They got to Gran’s, but she didn’t come to the door.  
“How odd!” said Dad. “She knows we are coming. Let’s look in the garden.”  
皆はおばあちゃんの家に着きましたが、おばあちゃんはドアを開けに出て来てくれませんでした。  
「変だなあ！」とパパが言いました。  
「僕たちが来るのを知っているのに。庭の方を見てみよう」

- PG 7: There were lots of things in the garden.  
“How odd!” said Biff. “Why has Gran put sunbeds out? It’s not summer.”  
庭にはたくさんの物が置いてありました。  
「変だねえ！」とビフが言いました。「なんでおばあちゃんはデッキチェアなんて出しているの？夏でもあるまいし」
- PG 8: Suddenly, Gran opened the door of the shed.  
“Surprise!” she said.  
The children looked inside.  
いきなり、おばあちゃんが物置のドアを開けました。  
「じゃじゃーん」とおばあちゃんが言いました。  
子どもたちは中を見てみました。
- PG 9: They all gasped.  
“I’ve made a nature laboratory,” said Gran. “We can do the nature project in here. It will be fun.”  
皆びっくりしました。  
「自然研究室を作ってみたんだよ」とおばあちゃんが言いました。  
「ここで自然についての調べものをするといいよ。楽しいと思うよ」
- PG 10: Gran took the children into the woods.  
“Let’s start with the trees,” she said.  
They collected lots of different leaves.  
おばあちゃんは子どもたちを森に連れて行きました。  
「まずは木から始めよう」とおばあちゃんが言いました。  
皆で形の違う木の葉をたくさん集めました。
- PG 11: Gran gave Nadim paper and crayons.  
“Put the paper against the tree. Then rub the crayon over it,” she said.  
“It’s called a bark rubbing.”  
おばあちゃんはナディムに紙とクレヨンを渡しました。  
「紙を木の上に押し当ててごらん。その上からクレヨンでこするんだよ」と言いました。  
「樹皮こすり、と言うやり方だよ」
- PG 12: Back in the laboratory, they looked at the bark rubbings.  
“Each type of tree has a different bark,” said Nadim.  
研究室にもどって、皆で樹皮こすりした紙を見ていました。  
「木の種類によって、それぞれ違った樹皮があるんだ」とナディムが言いました。



- PG 13: They stuck the leaves in their diaries. Gran had seeds from the trees.  
“We’ll plant these in pots,” she said. “One day they will grow into trees.”  
皆は日記帳に木の葉を貼り付けました。  
おばあちゃんは木の種を持って来ました。  
「この種を鉢に植えてみよう」と言いました。  
「いつかはそれが木に成長することだろう」
- PG 14: The next morning Gran got up early. She mixed seeds and nuts with melted fat and poured it into little pots.  
“What is that smell?” asked Chip.  
次の朝おばあちゃんは早起きました。  
種と木の実を溶かした脂肪と混ぜ合わせ、小さな容器に注ぎ入れました。  
「この匂いはいったい何？」とチップが聞きました。
- PG 15: “Breakfast!” said Gran.  
“I don’t want to eat that!” said Biff.  
“It’s not for you!” said Gran. “It’s for the birds!”  
「朝食だよ！」とおばあちゃんと言いました。  
「そんなの食べたくないよ！」とビフと言いました。  
「お前たちの分ではないよ！」とおばあちゃんが言いました。  
「鳥たちの分だよ！」
- PG 16: When the fat had set in the pots, Gran hung them in the garden.  
“We can watch the birds,” she said.  
脂肪が容器の中で固まると、おばあちゃんはそれを庭に吊るしました。  
「鳥たちを観察できるよ」と言いました。
- PG 17: In the afternoon, Gran took them to a special place in the woods.  
“Now for a secret,” said Gran. “Look!”  
午後からおばあちゃんは、子どもたちを森の中の特別な場所に連れて行ってくれました。  
「さあ、これは秘密だよ」おばあちゃんと言いました。「見てごらん！」
- PG 18: The children looked around. There were coloured mushrooms everywhere.  
“It’s amazing!” gasped Nadim.  
“Look, but don’t touch,” said Gran.  
子どもたちは周りを見回しました。あちこちに色のついたキノコが生えていました。  
「こりゃあ、すごいや！」とナディムが驚いて言いました。  
「見てごらん、でもさわっちゃだめだよ」とおばあちゃんが言いました。

- PG 19: On the way home Chip found some marks in the mud.  
“Are they animal tracks?” he asked.  
家に戻る途中、チップはぬかるみで足跡を見つけました。  
「これは動物の足跡かな？」と聞きました。
- PG 20: Gran got some powder out of her bag. She mixed it with water and made a paste. Then she poured the paste on to the animal track.  
おばあちゃんはカバンから粉を取り出しました。それを水で溶いて、ノリ状にしました。そして、それを動物の足跡の上に撒きました。
- PG 21: “This is plaster,” said Gran. “It will dry in the shape of the animal track. It’s called a cast.”  
「これは石膏だよ」とおばあちゃんは言いました。  
「動物の足跡の形に乾いて固まるの。鑄型と言うんだよ」
- PG 22: They took the cast back to the laboratory. Biff looked up the animal track in a book.  
“It’s from a badger,” she said.  
皆は研究室に鑄型を持ち帰りました。ビフはその足跡を本で調べてみました。  
「これはアナグマの足跡だ」と言いました。
- PG 23: “Tonight I have another surprise,” said Gran. “We need to wrap up warm and we’ll need the sunbeds.”  
“Sunbeds?” asked Biff.  
今夜、もうひとつビックリする事が起こるよ」とおばあちゃんは言いました。  
「たくさん着込んで暖かくする事、それからデッキチェアが必要だよ」  
「デッキチェア？」とビフが聞きました。
- PG 24: They lay on the sunbeds and looked up. The sky was full of shooting stars.  
“This is amazing!” said Chip.  
“And it’s your homework!” said Gran.  
皆はデッキチェアに横たわり、空を見上げました。空は流れ星でいっぱいでした。  
「こりゃあ、すごいや！」とチップが言いました。  
「そして、これがお前たちの宿題にもなってるんだよ！」とおばあちゃんが言いました。

# Olympic Adventure 「オリンピックの冒険」

- PG 1: The children were doing a project on the Olympic Games.  
“Tomorrow we will go to the museum and next week it’s sports day,”  
said Mrs May.  
子どもたちはオリンピック競技について調べていました。  
「明日は博物館に行きます。来週はスポーツデイがありますよ」とメイ先生  
が言いました。
- PG 2: “Everyone can enter a race on sports day,” said Mrs May.  
“I think the girls should have a sewing race!” laughed one of the boys.  
「スポーツデイには、誰でもレースに参加できます」とメイ先生が言いま  
した。  
「女の子たちは縫い物競争でもすればいいんだよ」と言って男の子の一  
人が笑いました。
- PG 3: After school, Anneena and Wilma went to play with Biff. Anneena was  
cross.  
“Some boys are so silly,” she said. The magic key began to grow.  
放課後アニーナとウィルマがビフのところへ遊びに来ました。アニーナ  
は怒っていました。  
「男の子って、ほんとうにオバカなんだから」と言いました。  
マジックキーが光り始めました。
- PG 4: The magic took the girls back in time, to a village in Greece. A boy was  
calling to the villagers.  
“Follow me to the games,” he said.  
魔法の力で女の子たちは時代をさかのぼり、ギリシャの村に連れて来  
られました。  
男の子が村人に呼びかけていました。  
「競技に参加する人はついて来てください」と言いました。
- PG 5: “Can we go too?” asked Biff.  
“Anyone can come!” said the boy. “As long as they are male.”  
「私たちも一緒に行ってもいいですか？」とビフが言いました。  
「誰でも参加できます」と男の子が言いました。「男ならばね」

- PG 6: The men and the boys from the village went to the games.  
“It’s not fair!” said Anneena.  
“Let’s follow them,” said Biff.  
村の男の人たちと、男の子たちが競技に参加しに行きました。  
「フェアじゃないわ！」とアニーナが言いました。  
「追いかけてようよ」とビフが言いました。
- PG 7: Outside the games, there were lots of guards. They only let men and boys in to the games.  
“We’ll never get in,” said Biff.  
競技場の外にはたくさんの守衛がいました。男の人や男の子だけを競技に参加させていました。  
「これじゃあ、私たちは絶対に入れないね」とビフが言いました。
- PG 8: “I wish we could see!” said Wilma.  
Anneena had an idea. “Let’s climb a tree,” she said.  
「中の様子を見られたらなあ！」とウィルマが言いました。  
アニーナにいい考えが浮かびました。「木に登りましょう」と言いました。
- PG 9: The girls climbed an olive tree. They could see the games. They watched a race. Lots of men ran with shields.  
女の子たちはオリーブの木に登りました。  
競技を見ることが出来ました。競走の様子を見ました。大勢の男の人が盾を持って走っていました。
- PG 10: The winner won a prize. The prize was a vase. A man put a crown on the winner’s head.  
優勝者が賞品を貰っていました。それは壺でした。男の人が優勝者の頭に冠を被せていました。
- PG 11: Then the girls watched some men throwing discs as far as they could.  
“Hey you!” shouted a girl.  
それから女の子たちは、男の人たちが遠くをめがけて円盤を投げるのを見ていました。  
「ねえ、そのあなたたち！」女の子が叫びました。
- PG 12: The girl was under the tree.  
“If anyone catches you here, you’ll be in for the high jump!” she said.  
その女の子は木の下に立っていました。  
「もし誰かがここにいるあなたたちの姿を見つけたら、大目玉をくらうことになるわよ」と言いました。

[\*編集部注...**be (in) for the high jump** はイギリス英語の略式表現で「どやしつけられそうだ、罰を受けることになりそうだ」の意もある。ここではオリンピック競技のハイジャンプ(高飛び)とかけてこの表現が使われている]

- PG 13: “Then, why are you here?” asked Biff.  
“I’m picking olives,” said the girl. “My name is Hera. You’d better come with me to the village.”  
「それじゃ、あなたはなんでここにいるの？」とビフが聞きました。  
「オリーブの実を摘んでいるの」と女の子が言いました。  
「私の名前はヘラ。あなたたち、私と一緒に村へいらっしやい」
- PG 14: In the village, they met Hera’s friend, Mila.  
“It’s always quiet when the games are on,” said Mila. “It’s so boring!”  
村で、女の子たちはヘラの友達のみらに会いました。  
「競技が始まると村はいつも静かになってしまうの」とみらが言いました。  
「すごく退屈！」
- PG 15: Suddenly, Anneena had an idea. “Can you get all of your friends together?” she asked.  
突然、アニーナに考えが浮かびました。  
「お友達を全員、集めてくれない？」と聞きました。
- PG 16: The girls in the village came to the meeting.  
“This is my grandmother,” said Mila. “She paints the vases for the games.”  
村中の女の子が集まりました。  
「こちらは私のおばあちゃん」とみらが言いました。  
「競技用の壺の絵付けをしているのはおばあちゃんよ」
- PG 17: “Listen everyone,” said Anneena. “Why should boys have all the fun?”  
Let’s have a girls’ Olympic Games!”  
「みんな、聞いて」とアニーナが言いました。  
「なんで男の子たちばかり楽しい思いをするの？女の子だけのオリンピック競技をしましょうよ！」
- PG 18: There were all sorts of races and all the girls took part. There was a three-legged race and a sack race.  
色々な種類の競争が行われ、女の子たちは全員参加しました。二人三脚や布袋競争もありました。

- PG 19: Mila's grandmother gave the girls some old plates. The girls threw them like discs. They threw them as far as they could.  
ミラのおばあちゃんが女の子たちに古いお皿をくれました。女の子たちはそれを円盤のように投げました。出来るだけ遠くに向かって投げました。
- PG 20: The girls had an olive-and-spoon race. Biff dropped her olives and Hera slipped on them.  
女の子たちは「オリーブとスプーン」レースをしました。ビフが落としたオリーブで、ヘラが滑ってしまいました。
- PG 21: Mila's grandmother painted the girls on a vase. Hera made some crowns from olive twigs.  
"We're all winners!" she said.  
ミラのおばあちゃんが壺に女の子たちの絵を描きました。ヘラはオリーブの枝で冠を作りました。  
「私たち、全員優勝よ！」と言いました。
- PG 22: The boys and the men came back.  
"Girls doing sports?" said one boy. "That will never catch on!"  
Suddenly, the magic key began to glow.  
男の子と男の人たちが戻って来ました。  
「女の子たちがスポーツをするって？」とひとりの男の子が言いました。  
「うまく行くはずないね！」  
突然、マジックキーが光り始めました。
- PG 23: The next day, Mrs May took the class to the museum. There was a display about the Greek Olympics. In a glass case there was a broken vase.  
次の日、メイ先生がクラスの皆を連れて博物館へ行きました。ギリシャのオリンピックの展示がありました。ガラスケースの中に、壊れた壺がありました。
- PG 24: "A long time ago, a girls' Olympics began," said Mrs May.  
Anneena looked at the boys. "And did the idea catch on?" she asked.  
「ずっと昔に、女の子たちのオリンピックが始まったのよ」とメイ先生が言いました。  
アニーナは男の子たちを見ました。  
「それで、そのアイデアはうまく行ったんですか？」と聞きました。